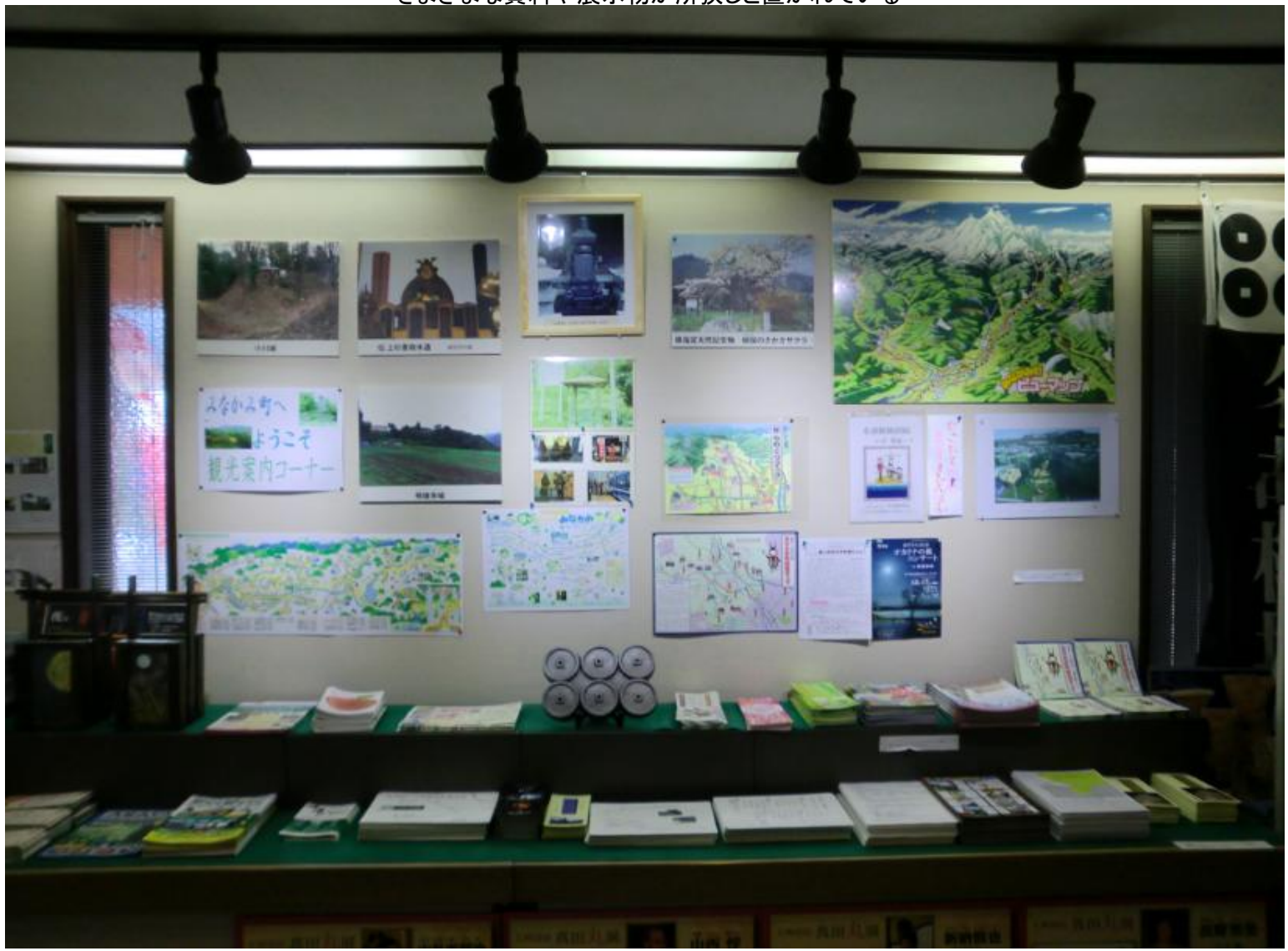
名胡桃城跡（群馬県みなかみ町）

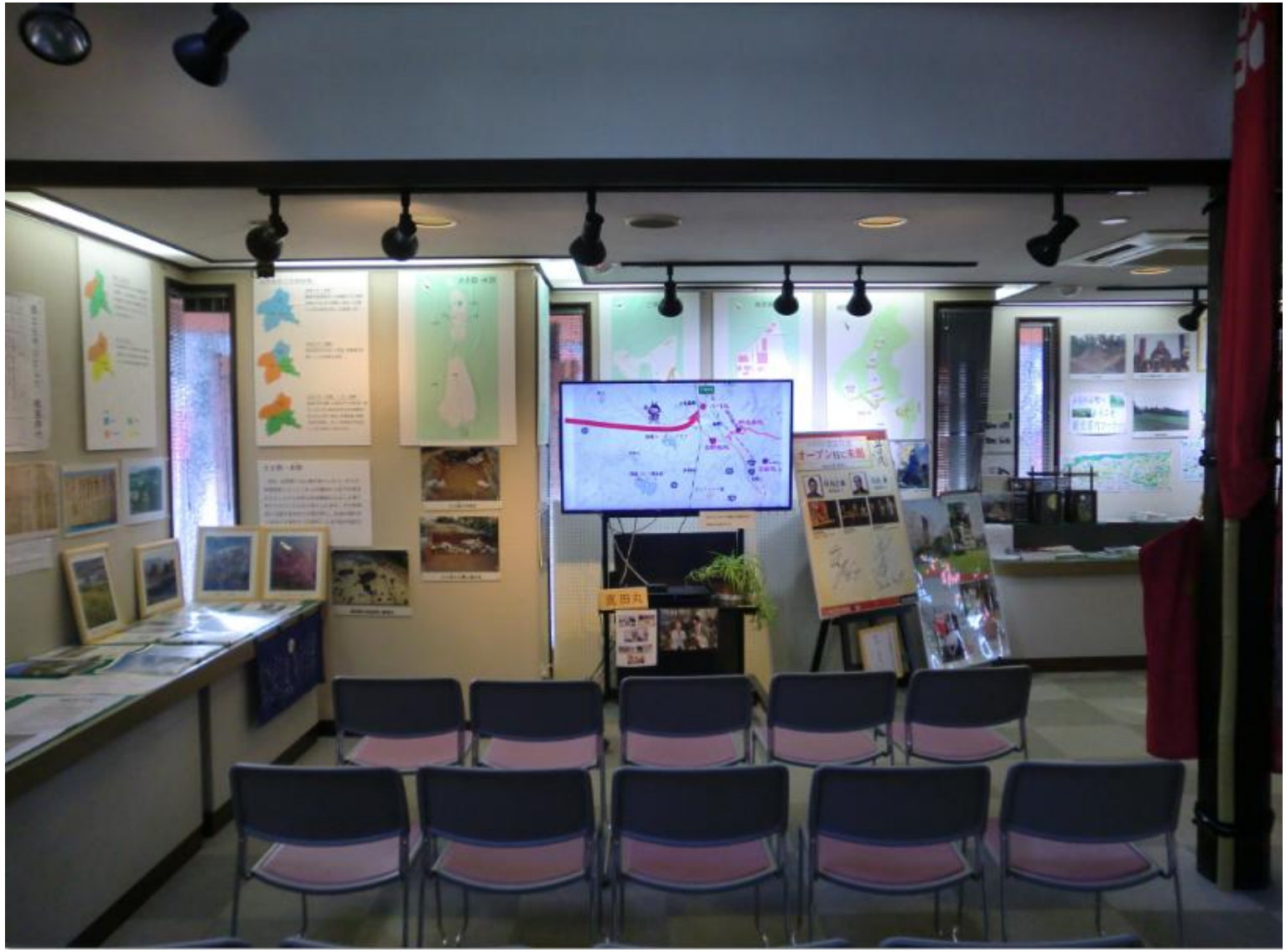
なぐるみじょうあと

築城年代：明応元年（1492）、築城者：名胡桃景冬

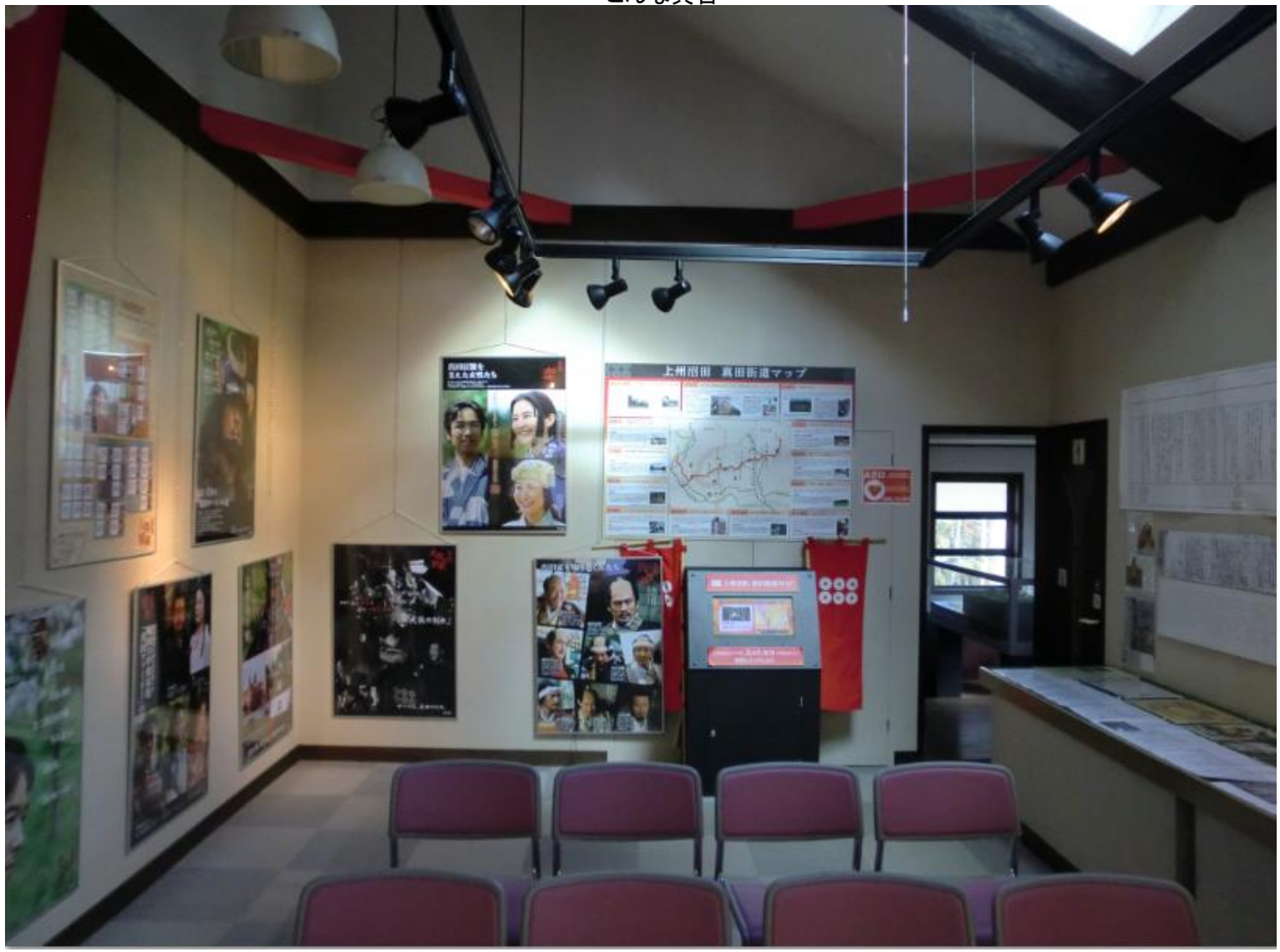
正面の建物は名胡桃城址案内所

さまざまな資料や展示物が所狭しと置かれている

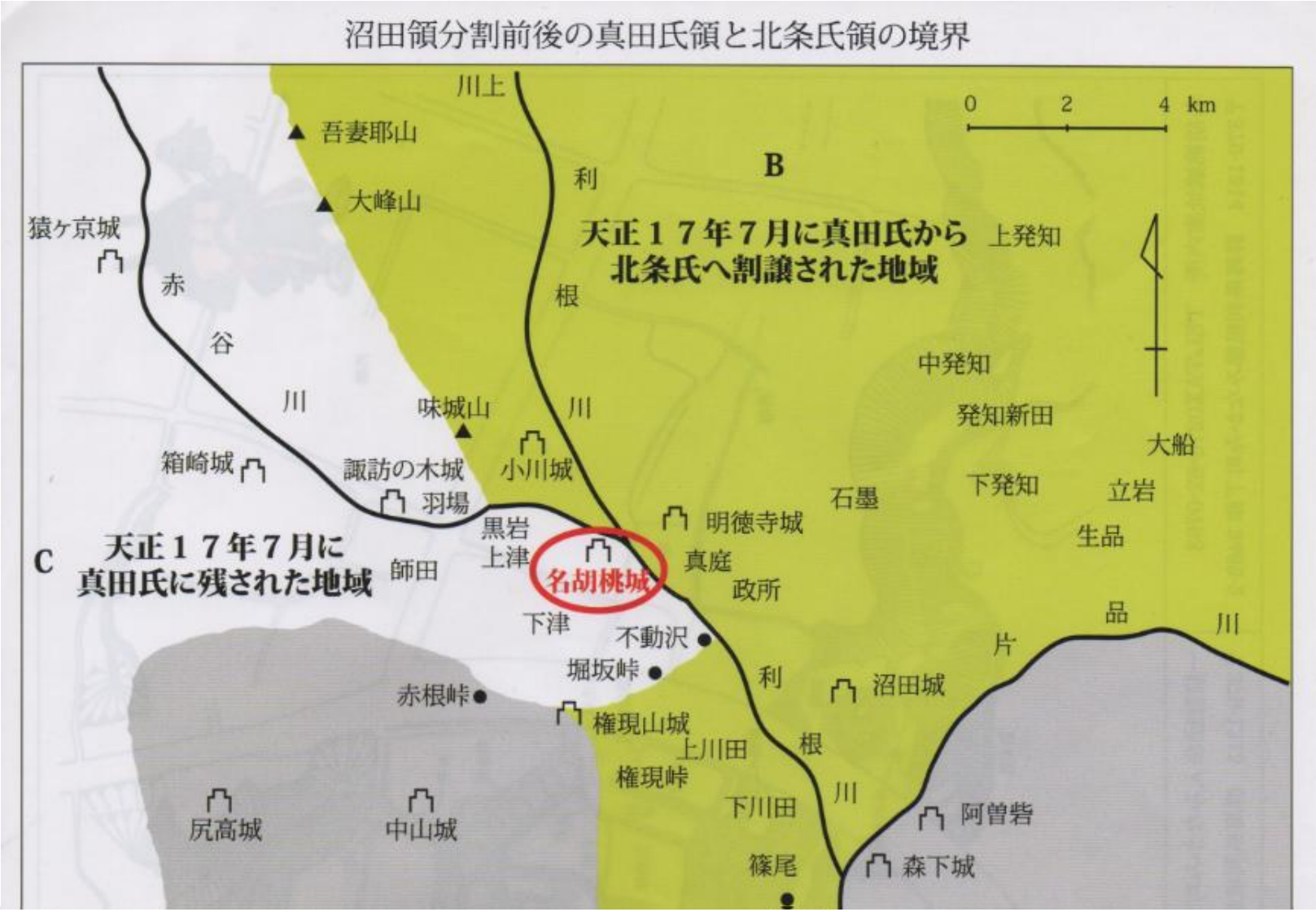


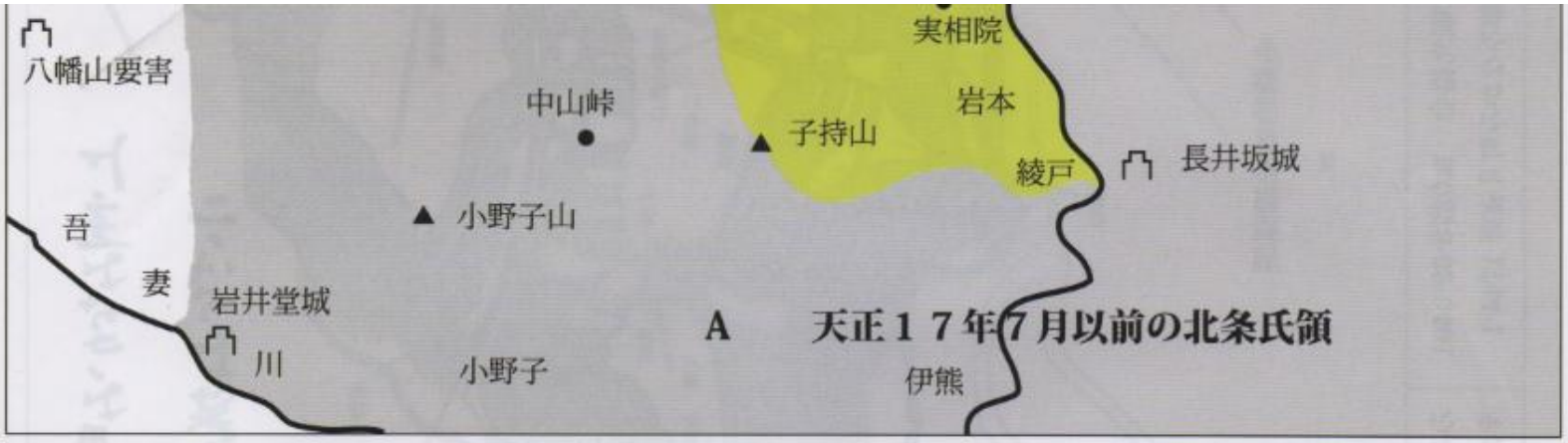

宮田丸

こんな具合



その資料から転記した名胡桃城の所在地





豊臣秀吉の天下統一と名胡桃城

京都本能寺における織田信長の横死の後、その後継者としての地歩を固めた羽柴（豊臣）秀吉は、四国の長宗我部氏、東海の徳川氏、九州の島津氏などを次々に降伏或いは服属させ、天下統一を推し進めました。さらに、小田原の北条氏を臣従させるため、懸案であった「沼田領問題」の裁定に乗り出しました。その内容は、真田昌幸が領有する沼田領（利根郡と吾妻郡）を分割し、名胡桃城を含む３分の１を真田氏に残して、他の３分の２は沼田城と共に北条氏へ譲渡するというもので、それは天正１７年（１５８９）７月に実行されました。ところがその直後の１０月下旬、北条方が謀略によって名胡桃城を乗っ取るという事件が発生したのです。これに激怒した秀吉は全国の大名を動員して北条氏を攻め滅ぼし、天下統一を成し遂げたのです。

上の図は、天正１７年７月に豊臣秀吉が沼田領を分割した前後の真田氏領と北条氏領の境界を史料をもとに推定したものです。名胡桃城には近接して三方から北条氏領が迫っている状況が分かります。

この図についての根拠史料などの詳しいことを知りたい方は、平成２７年８月発行の『群馬文化』第３２３号所載の拙稿「名胡桃城奪取事件とその周辺」をご覧ください。なお、上の図は同論文に掲載した図を一部修正したものです。

（文責：みなかみ町歴史ガイドの会　赤見初夫）

これは縄張図

この城は、ささ郭・本郭・二郭・三郭等の主要部が直線に並んだ連郭式の山城で、各郭は堀切でそれぞれ分断され、周囲は急な崖や石積をもつ土塁・柵・櫓で守られていました。
二郭と般若郭の通路脇には三時期に別れて掘立柱建物群が建てられ、各虎口には門を設け、堀切には木橋や喰違いの造作がみられます。武田氏がよく用いた丸馬出が時期別に二か所で確認され、三郭は後で増築したことがわかりました。
説明板 10基
木橋 2カ所
門柱表示
建物址表示
土塁復元
土塁植栽表示
櫓・階段表示
通路表示
三日月堀（第一期）
馬出表示（第二期）
ささ郭
ささくるわ
本郭の前に付けられた郭で両側に石積をもつ土塁、先端には礎石の門が残ります。
般若郭
はんにゃくるわ
通路の両側には二十軒ほどの建物群があり、周囲を柵や櫓で囲った館状の郭です。
馬出
うまだし
第二期に造られた丸馬出で、三郭及び外郭との間には木橋が架けられました。
二郭北虎口
にのくるわきたこぐち
礎石の北門と本郭堀切に架けた木橋を両手に通り、土塁上から横矢を掛けられる出入口です。
二郭
にのくるわ
周囲を土塁で囲い南北の門を直に結ぶ通路脇には、大小様々な建物群が並びます。
二郭南虎口
にのくるわみなみこぐち
二郭堀切は左右の堀が幅半分で喰違い、木橋から南門をつなぐ出入口で横矢掛りになっています。
三郭
さんのくるわ
第一期の三日月堀による丸馬出を埋め立て、第二期は三郭に改築されました。
物見
ささ郭
本郭
石碑
般若郭
駐車場
二郭
三郭
名胡桃城址案内所
ガイダンス
外郭
水の手
100m

二郭北虎口
にのくるわきたこぐち

礎石の北門と本郭堀切に架けた木橋を鉤手に通り、土塁上から横矢を掛けられる出入口です。

二郭
にのくるわ

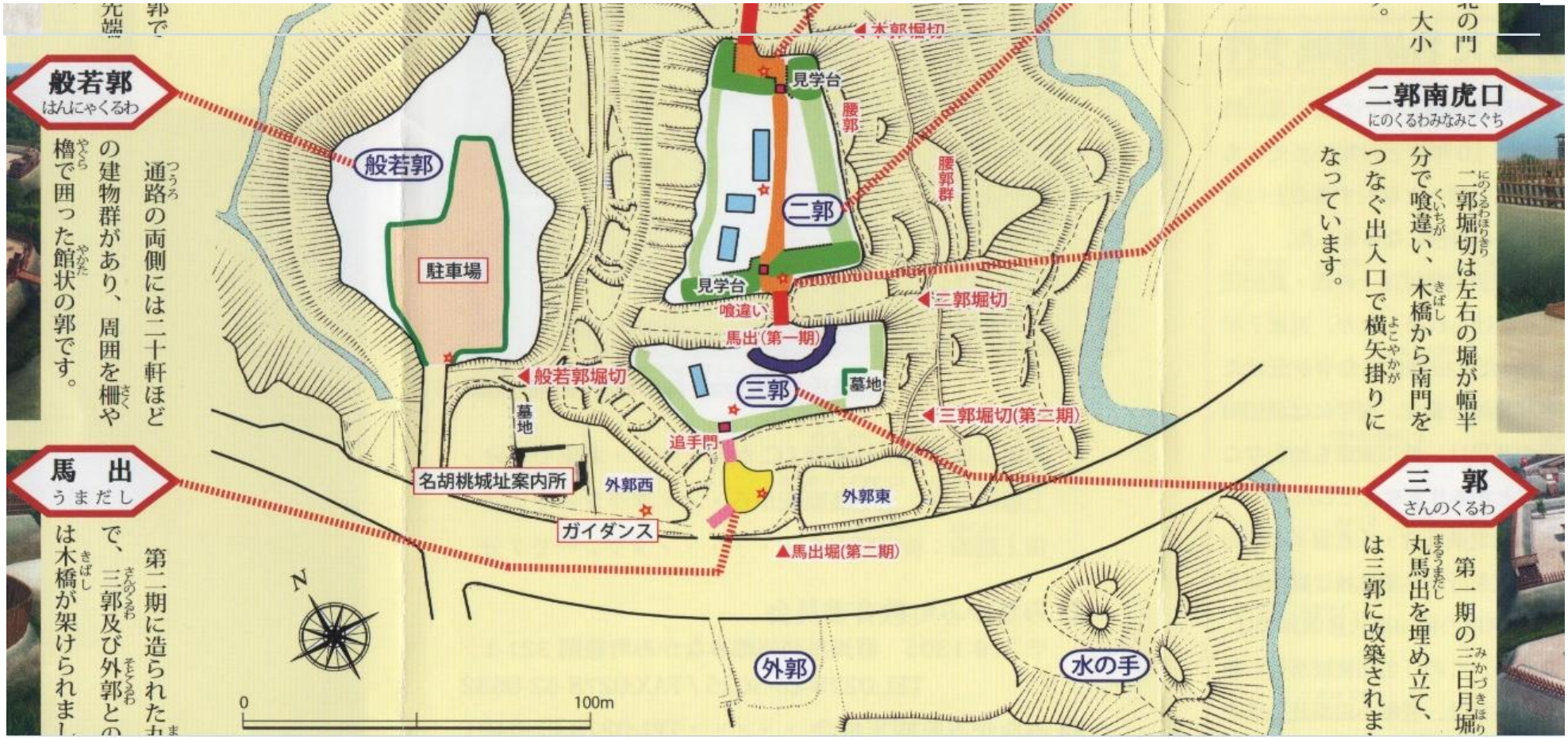
周囲を土塁で囲い南北を直に結ぶ通路脇には、様々な建物群が並びます

- 説明板 10 基
- 木橋 2 カ所
- 門柱表示
- 建物址表示
- 土塁復元
- 土塁植栽表示
- 橋・階段表示
- 通路表示
- 三日月堀（第一期）
- 馬出表示（第二期）

二郭・三郭等の主要部が直線に
は堀切でそれぞれ分断され、周
・柵・櫓で守られていました。
三時期に別れて掘立柱建物群が
け、堀切には木橋や喰違いの造
く用いた丸馬出が時期別に二か
築したことがわかりました。

ささ郭
ささくるわ

本郭の前に付けられた郭
両側に石積をもつ土塁、先
には礎石の門が残ります。



般若郭（はんにゃくるわ）

通路の両側には二十軒ほどの建物群があり、周囲を柵や櫓で囲った館状の郭です。

馬出（うまだし）

第二期に造られた丸馬出で、三郭及び外郭との出入口は木橋が架けられました。

二郭南虎口（にのくるわみなみこぐち）

二郭堀切は左右の堀が幅半分で喰違い、木橋から南門をつなぐ出入口で横矢掛りになっています。

三郭（さんのくるわ）

第一期の三日月堀は三郭に改築されました。

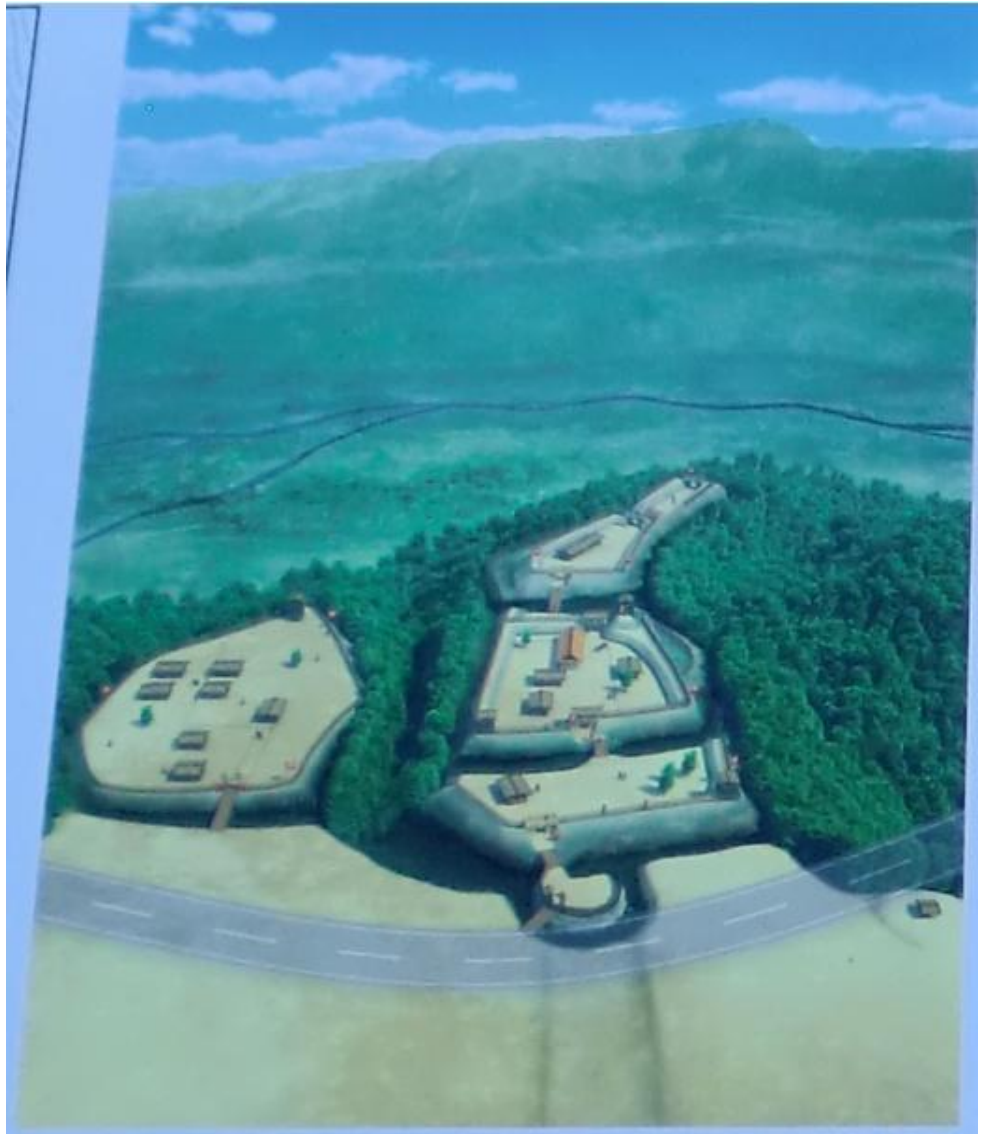
国道17号線月夜野バイパスが城内を貫いている/前方に三郭、二郭、本郭そして「ささ郭」と続いている/北東方向を見たところ

群馬県指定史跡
名胡桃城址

沢山の説明坂がある

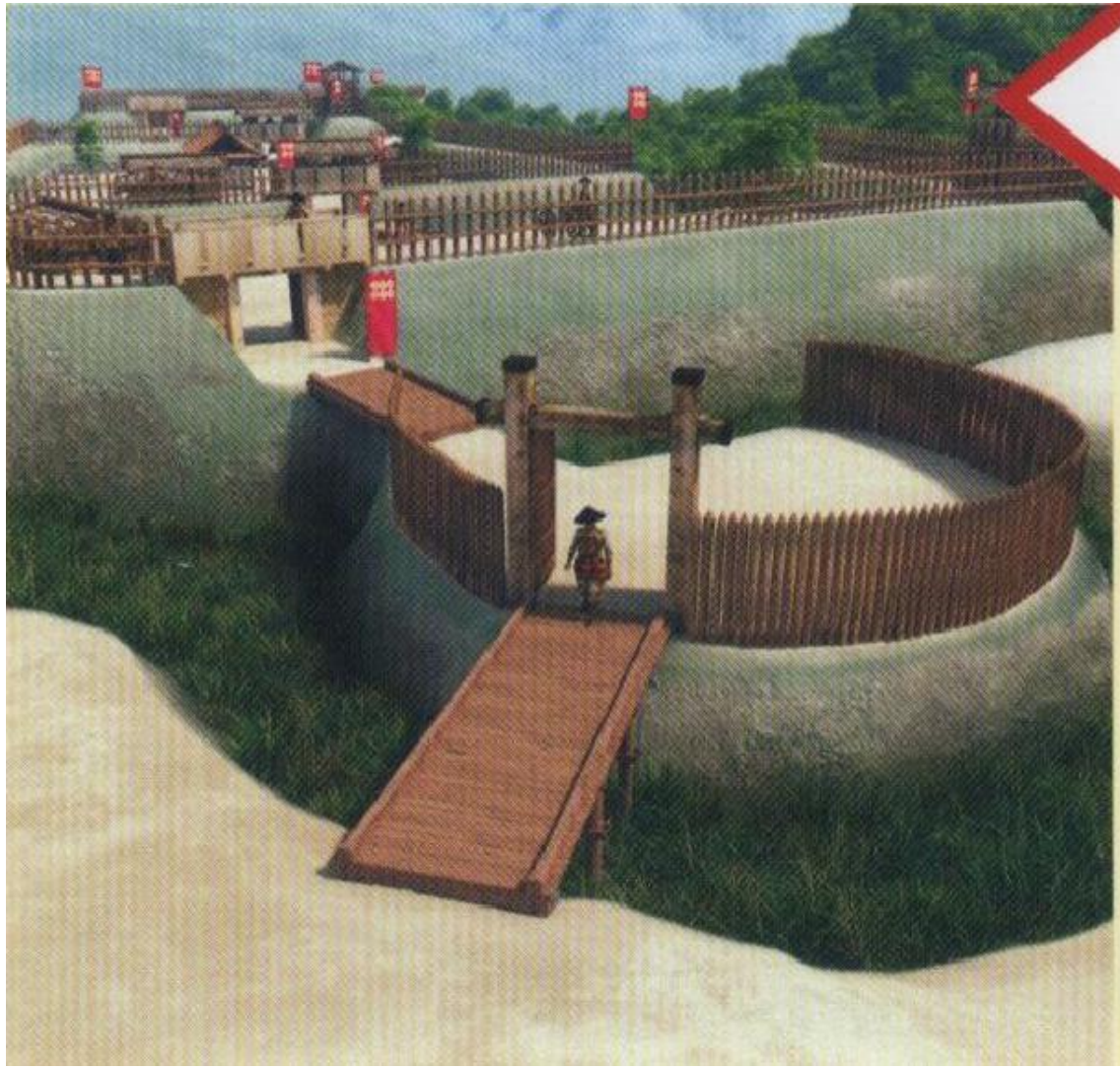
名胡桃城址全景空撮 1

名胡桃城址全景空撮２



全体復元想像図

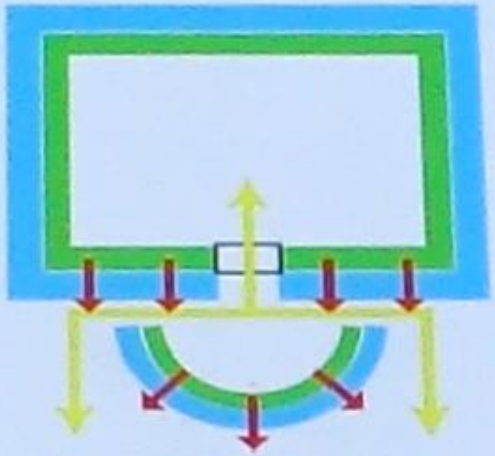
さて、この肌色に着色された部分は三郭手前の丸馬出で、小豆色の部分は手前が外郭との間に架かる木橋、奥が三郭との間に架かる木橋を表しているという



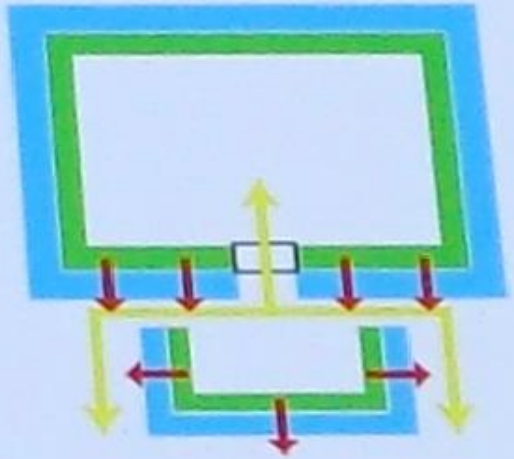
馬出
うまだし

第二期に造られた丸馬出（まるうまだし）で、三郭（さんのくるわ）及び外郭（そとくるわ）との間には木橋（きばし）が架けられました。

丸馬出（まるうまだし）



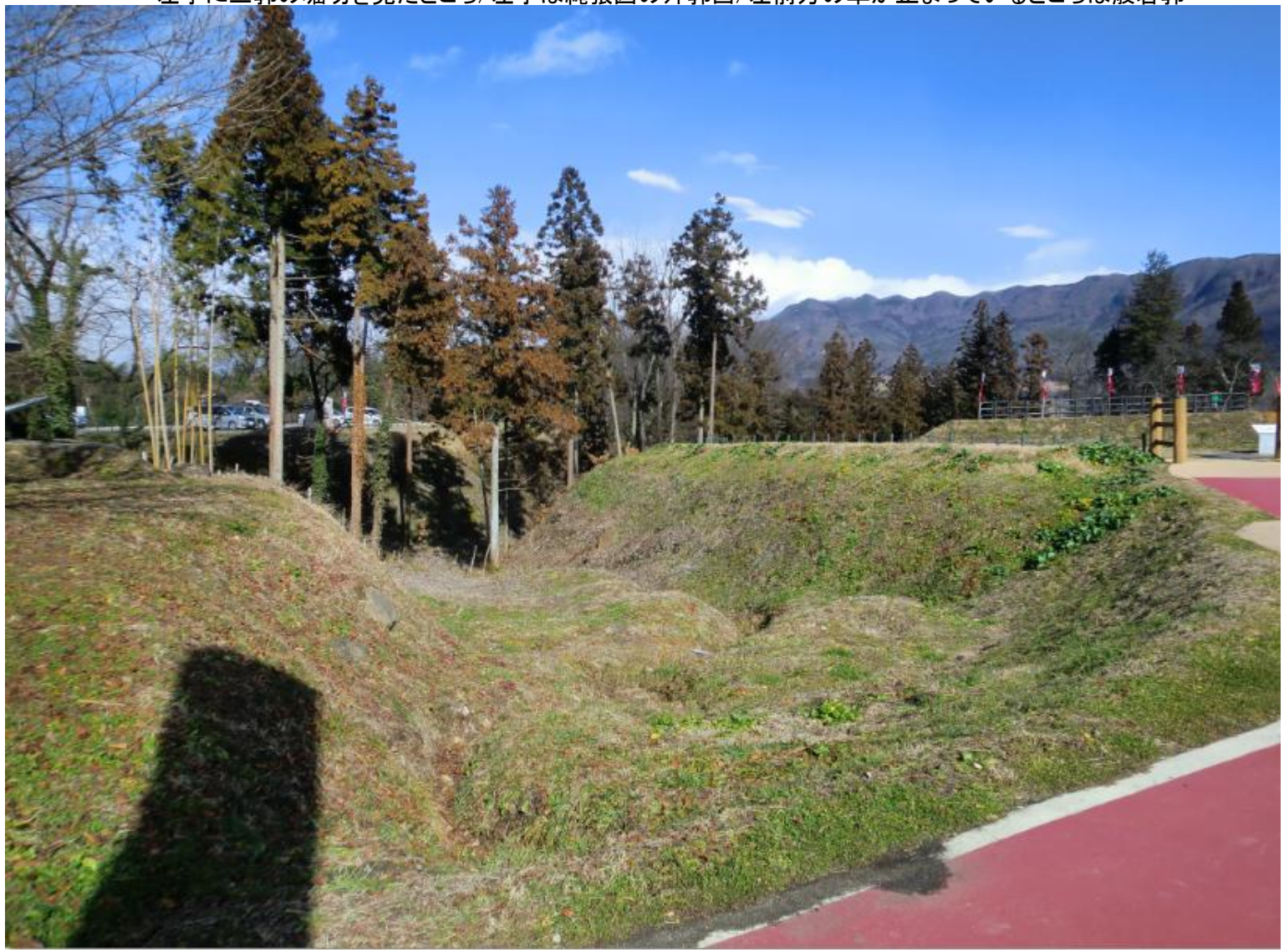
角馬出（かくうまだし）



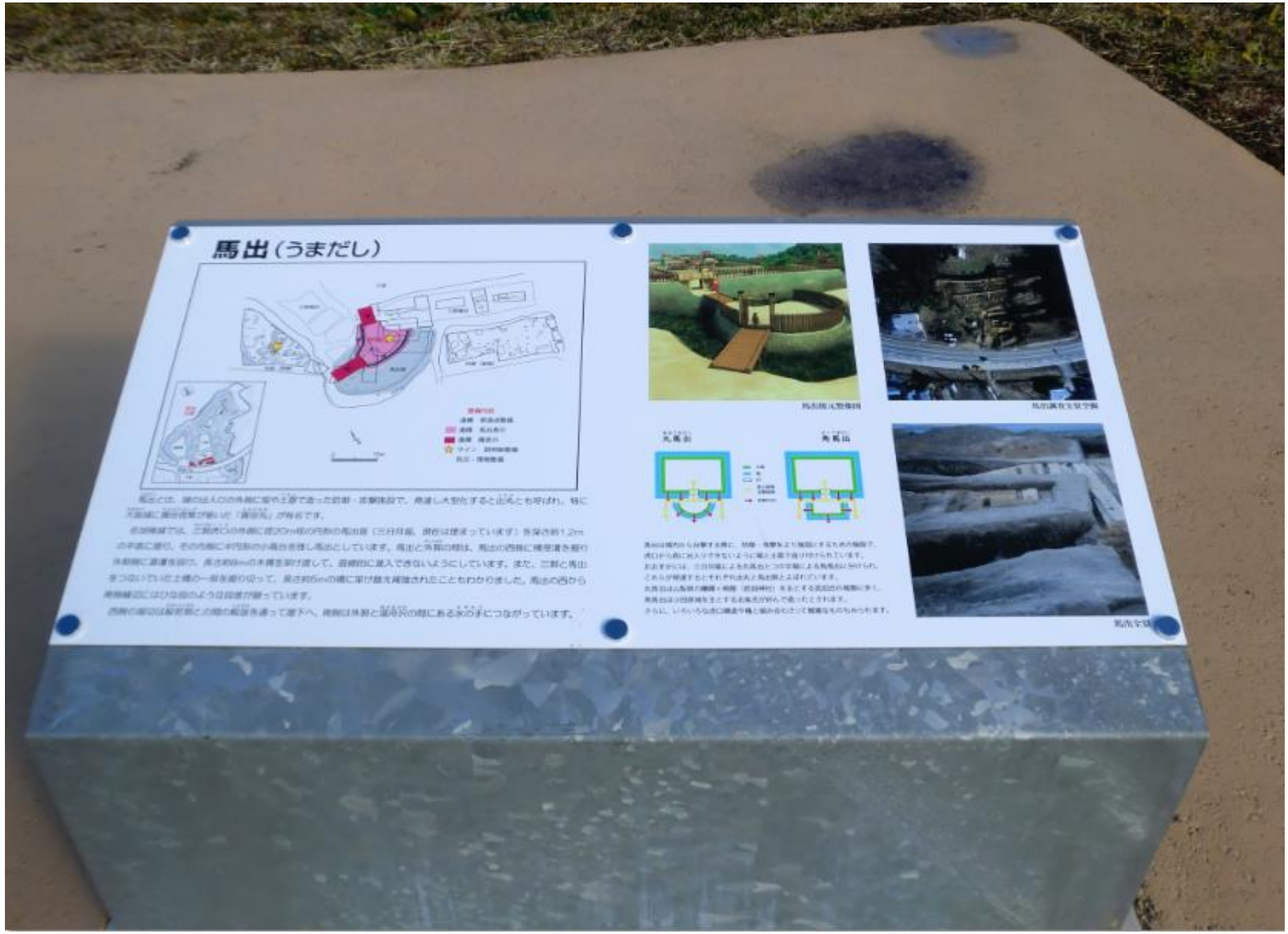
土塁
堀
門
進入経路
出撃経路
防御方向

馬出は城内から出撃する際に、防御・攻撃をより強固にするための施設で、
虎口から直に出入りできないように堀と土塁で造り付けられています。
おおまかには、三日月堀による丸馬出とコの字堀による角馬出に分けられ、
これらが発達するとそれぞれ出丸と馬出郭とよばれています。
丸馬出は山梨県の躑躅ヶ崎館（武田神社）を主とする武田氏の城館に多く、
角馬出は小田原城を主とする北条氏が好んで造ったとされます。
さらに、いろいろな虎口構造や櫓と組み合わさって複雑なものもみられます。

左手に三郭の堀切を見たところ/左手は縄張図の外郭西/左前方の車が止まっているところは般若郭



これは右手を見たところで、一段高い部分が縄張図の外郭東


馬出（うまだし）
馬出(丸型)
馬出(角型)

馬出（うまだし）

馬出とは、城の出入口の外側に堀や土塁で造った防御・攻撃施設で、発達し大型化すると出丸とも呼ばれ、特に大阪城に真田信繁が築いた「真田丸」が有名です。

名胡桃城では、三郭虎口の外側に径20m程の円形の馬出堀（三日月堀、現在は埋まっています）を深さ約1.2mの平底に掘り、その内側に半円形の小高台を残し馬出としています。馬出と外郭の間は、馬出の西側に橋受溝を掘り外郭側に基壇を設け、長さ約8mの木橋を架け渡して、直線的に進入できないようにしています。また、三郭と馬出をつないでいた土橋の一部を掘り切って、長さ約5mの橋に架け替え補強されたこともわかりました。馬出の西から南側縁辺にはひな段のような段差が廻っています。

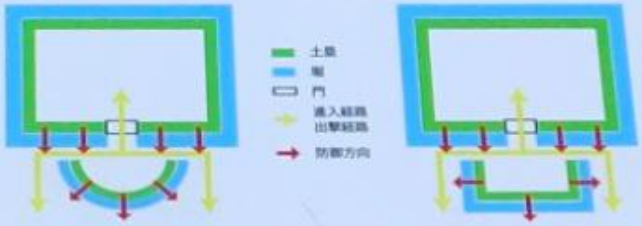
西側の堀切は般若郭との間の般坂を通って崖下へ、南側は外郭と濁舟沢の間にある水の手につながっています。

馬出復元想像図

馬出調査全景空撮

まるうまだし
丸馬出

かくうまだし
角馬出

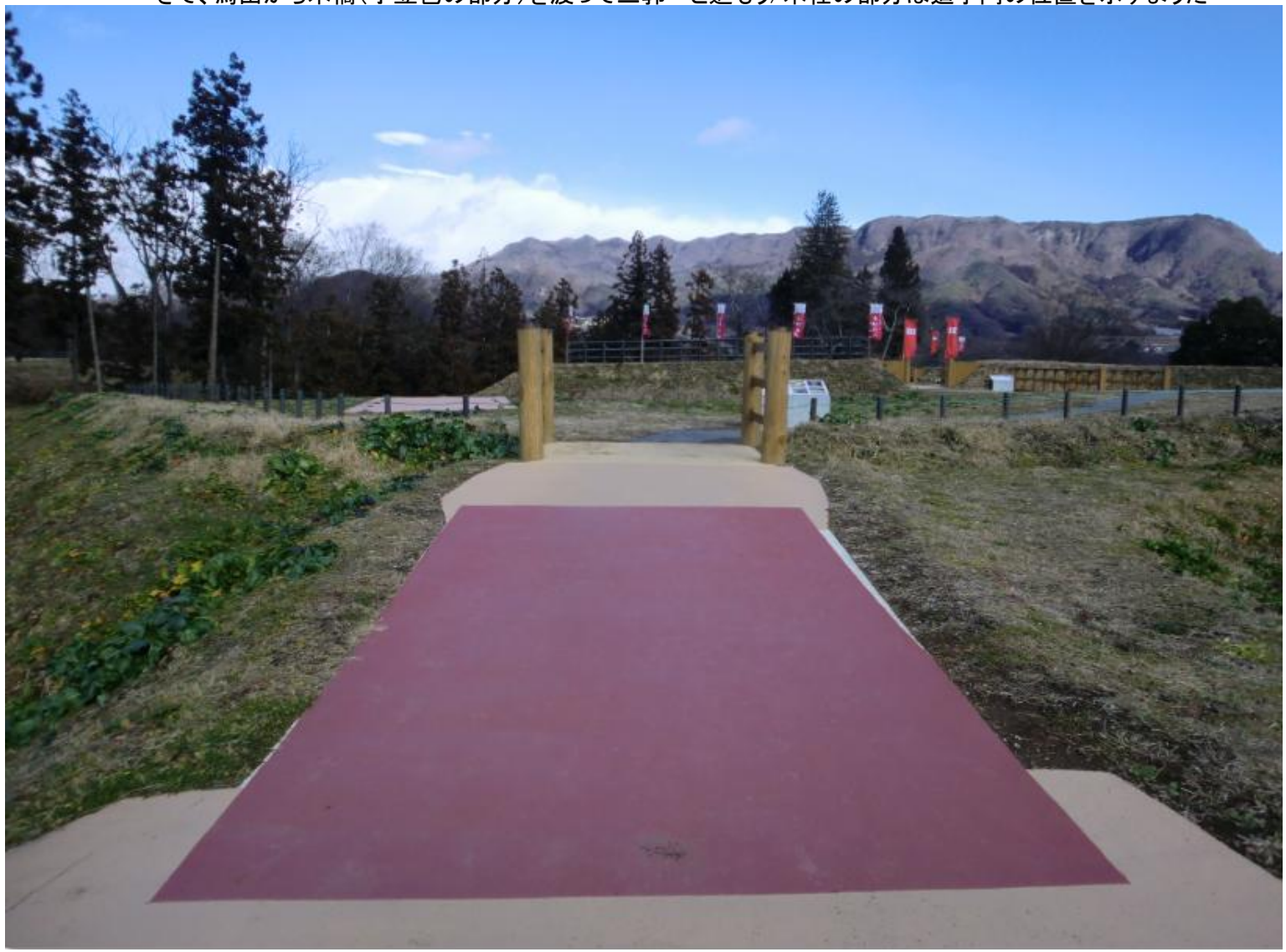


馬出は城内から出撃する際に、防御・攻撃をより強固にするための施設で、
虎口から直に出入りできないように堀と土塁で造り付けられています。
おおまかには、三日月堀による丸馬出とコの字堀による角馬出に分けられ、
これらが発達するとそれぞれ出丸と馬出郭とよばれています。
丸馬出は山梨県の躑躅ヶ崎館（武田神社）を主とする武田氏の城館に多く、
角馬出は小田原城を主とする北条氏が好んで造ったとされます。
さらに、いろいろな虎口構造や櫓と組み合わさって複雑なものもみられます。

馬出全景

振り返って南西方向を見たところ/こちらには外郭が広がっていたらしい

さて、馬出から木橋（小豆色の部分）を渡って三郭へと進もう/木柱の部分は追手門の位置を示すようだ



木橋の位置から左手の二郭の堀切を見たところ/前方の車が止まっているところは般若郭

これは右手の二郭の堀切を見たところ

さて、追手門を進むと三郭となる

三郭（さんのくるわ）

三郭の規模は約64×26mで、東西に長い郭です。外郭との間の堀切は幅約12m深さ5～7mあり、西側の堀底は般若郭との間の般坂と合流し北へ延びています。

二郭堀切の土橋外側で幅約3m深さ約1.5m薬研形の三日月堀が検出されたことから、築城当初ここは三郭でなく、馬出があったことがわかりました。その後、三日月堀を埋めて郭や堀切などを新設する大改造を行っていますが、ここは大きな馬出郭であったとも考えられます。

郭の西側と南側には石列が残り、基底幅5～6mの土塁がありました。新たな馬出とつながる土橋は掘り切られていて、再び後世に盛り土されています。追手としての虎口には門、郭内には時期の異なる３棟の掘立柱建物がそれぞれ建てられ、そのうち建物１棟と浅いＬ字溝を組み合わせた施設が、三日月堀を埋め立てた後に造られています。

三郭復元想像図

三郭調査全景空撮

二郭三日月堀址

三郭掘立柱建物址

三郭
さんのくるわ

第一期の三日月堀（みかづきほり）による丸馬出（まるうまだし）を埋め立て、第二期は三郭に改築されました。

これが3号掘立建物跡を示す表示/礎石の位置も表現されている

三郭を北西側から南東方向に見たところ

これは三郭（右手）と二郭（左手）の間の堀切

振り返ってその堀切が下って行く様子を見たところ

前方は二郭の東側に復元された土塁

その土塁を北東側から南西方向に見たところ/向こうに墓地がある

振り返って北東方向を見たところ/堀切の向こうに二郭が見える

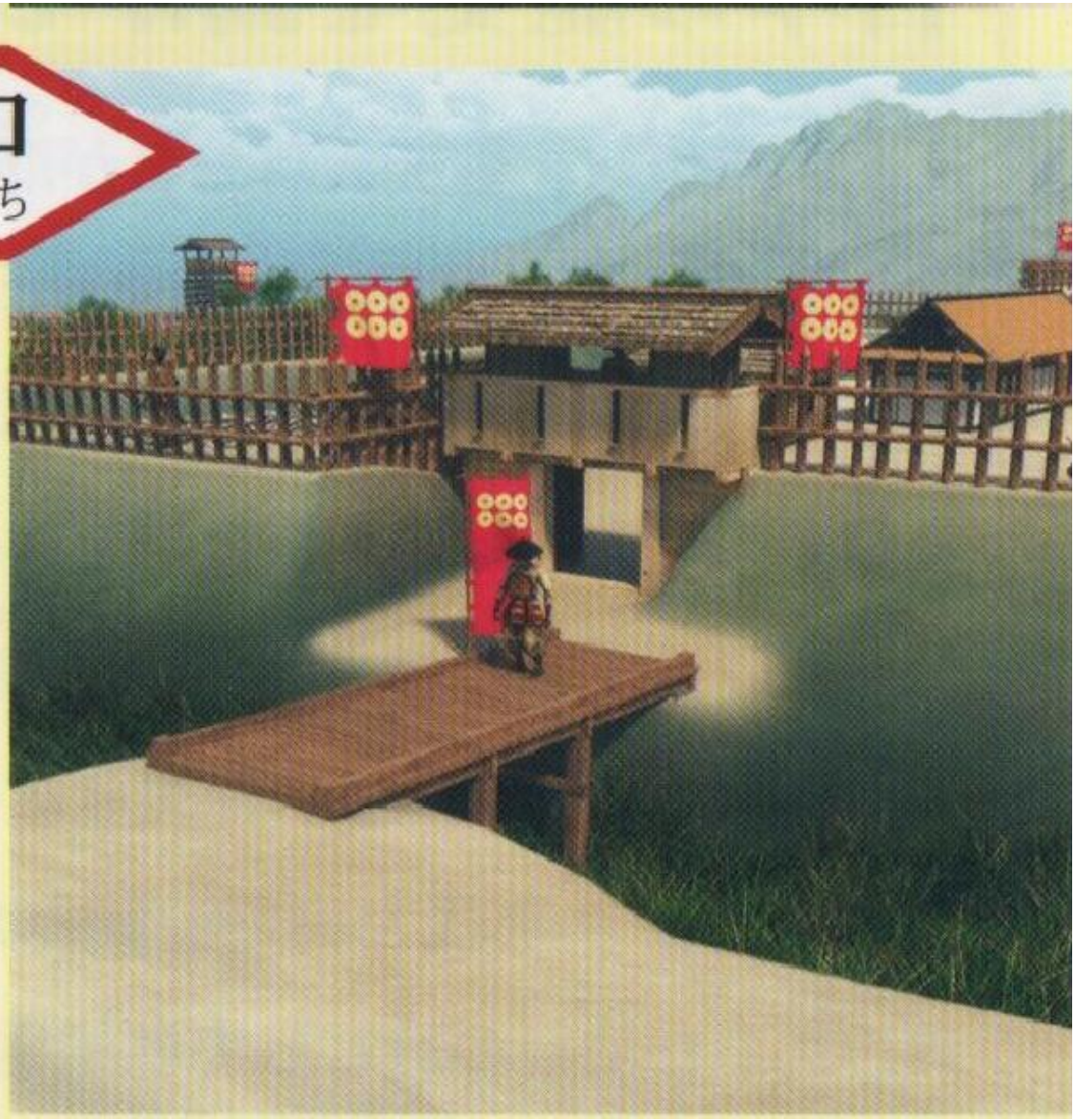
その右手を見ると急峻な崖となっている

これは三郭（左手）と二郭（右手）の間の堀切を見たところ

さて、これは三郭から二郭へ堀切を渡って進む木橋で、その先は二郭南虎口となっている

二郭南虎口
にのくるわみなみこぐち

二郭堀切（にのくるわほりきり）は左右の堀が幅半分で喰違（くいちが）い、木橋（きばし）から南門をつなぐ出入口で横矢掛（よこやかが）りになっています。



これが食違い虎口/正面の木柱の部分は二郭への南門の位置を示すようだ

二郭南虎口（にのくるわみなみこぐち）
虎口とは防御施設としての出入口のことで、小口や戸口に虎の字をあてて勇猛さ危険さを意味しています。
この二郭南虎口は、二郭の中が直接見通かされないよう、郭内の建物敷地よりの一段高い切通に造られています。二郭
郭切は幅11～13m深さ5～7mで、郭切法面の傾斜は二郭側が45度二郭側が55度と角度を変えて掘られています。
また、二郭郭切は直線的に設計せず、蛇行させるように掘られています。郭切・土塁・門によりをもに曲がりながら
進入する構造、正面や横方向から攻撃できるこの防御構造を喰い違虎口と呼びます。虎口周辺の土塁基部内側には、
2～3段の小礫石の乱石積みが残っています。 二郭郭切のよ橋は基盤面に掘り切られ、4本の柱による木橋を架け
ていました。土塁に挟まれた4本の柱穴による門址は、北虎口の薬医門と同じ構造です。
虎口
喰い違い虎口
二郭南西口復元想像図
二郭郭切土橋と木橋柱穴
二郭南東口門址

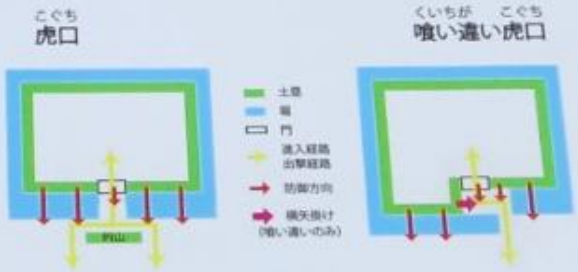
二郭南虎口（にのくるわみなみこぐち）

虎口（こぐち）とは防御施設としての出入口のことで、小口や戸口に虎の字をあてて勇猛さ危険さを意味しています。

この二郭南虎口（このくるわ）は、二郭の中が直接見透かされないよう、郭内の建物敷地より一段高い位置に造られています。二郭堀切（ほりきり）は幅11～13m深さ5.5～7mで、堀切法面の傾斜は三郭（さんのくるわ）側が45度二郭側が55度と角度を変えて掘られています。また、二郭堀切は直線的に設計せず、堀幅半分ずらして掘られています。堀切・土塁（どるい）・門により左右に曲がりながら進入する敵を、正面や横方向から攻撃できるこの防御構造を喰い違（くいちが）虎口と呼びます。虎口周辺の土塁基底部内側には、2～5段の川原石の乱石積みが残っています。 二郭堀切の土橋は薬研（やげん）形に掘り切られ、4本の脚柱による木橋を架けていました。土塁に挟まれた4本の掘立柱（ほったてばしら）による門址は、北虎口の礎石（そせき）門と同じ規模です。

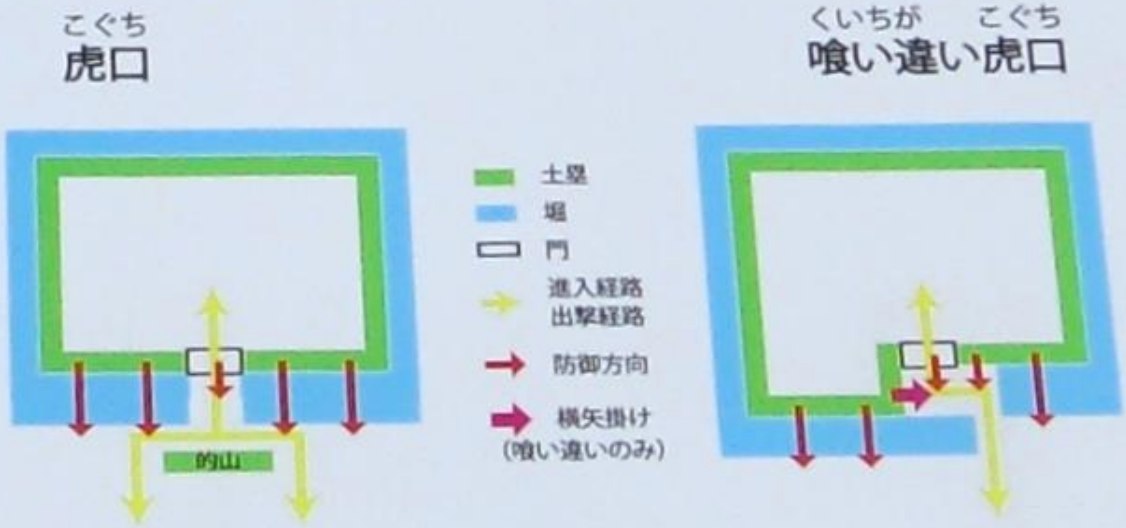
二郭南虎口復元想像図

二郭堀切土橋と木橋柱穴



左側の模式図は、虎口の手前に的山（あづち）土塁を設けることにより、
外から郭内部を見られないようにするとともに簡単に進入させないため
工夫されていますが、堀や土塁が直線上に造られていることから、
進入してくる敵に対して正面からの防御しかできません。
右側の模式図は、堀と土塁の位置をずらし筋違いに造られていることから、
郭の外から門へ続く通路が折れてクランク形になり直に入れなくなります。
土塁上からは正面の敵を防御することができ、門の手前では横方向からも
攻撃することができ、敵の進入を防ぐことができます。
これを「横矢掛け」といい、このような構造を「喰い違い」とよびます。

二郭南虎口門址



左側の模式図は、虎口の手前に的山（あづち）土塁を設けることにより、
外から郭内部を見られないようにするとともに簡単に進入させないため
工夫されていますが、堀や土塁が直線上に造られていることから、
進入してくる敵に対して正面からの防御しかできません。
右側の模式図は、堀と土塁の位置をずらし筋違いに造られていることから、
郭の外から門へ続く通路が折れてクランク形になり直に入れなくなります。
土塁上からは正面の敵を防御することができ、門の手前では横方向からも
攻撃することができ、敵の進入を防ぐことができます。
これを「横矢掛け」といい、このような構造を「喰い違い」とよびます。

これは南門手前で左手を見たところで、復元された土塁の上に見学台が設けられている/車が止まっているところは般若郭

少し左手を見たところ/左手が三郭

振り返って見たところ/左手が二郭、右手が三郭

南門から北東方向を見たところで、二郭に建っていた掘立建物跡を示す表示がある

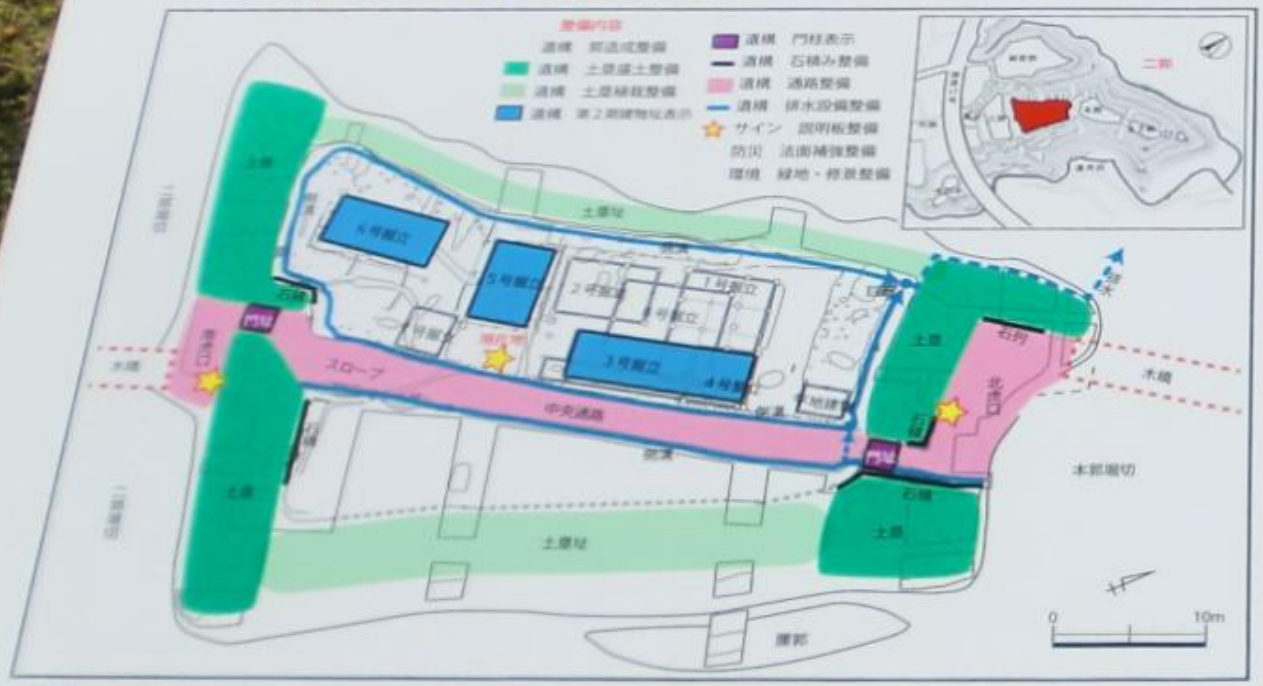
先程の見学台から南東方向に南門と復元された土塁を見たところ

これはその土塁の右手の堀切を見たところ/右手は三郭

二郭を南側から北方向に見たところ

二郭（にのくるわ）

二郭（にのくるわ）



二郭は約65×50mの台形で、西側の縁辺は広く崩落して波打った形になっています。中央部に広がる建物敷地は、周囲より1m程低く平坦に造成されていて、西～南～東側には段があり、幅6～7mの土塁基底部が残っています。

郭の北側と南側には、それぞれ特徴的な虎口（別に説明）が確認され、両脇に溝を持つ幅2.5m程の通路が南北の門を直線で結んでいます。南虎口からの通路面は、スロープになっています。南北の虎口周辺の土塁基底部には石積みがあり、通路脇の溝の壁には部分的に石が並べられています。また、東側崖面の中間には腰郭が残っています。

この通路の西側からは8棟の掘立柱建物址群がみつかり、般若郭等と同様に3時期に分けて考えられます。復元整備では第2期の3棟が平面表示されています。建物と土塁の間には溝が廻り、排水設備が整っていました。

二郭復元想像図

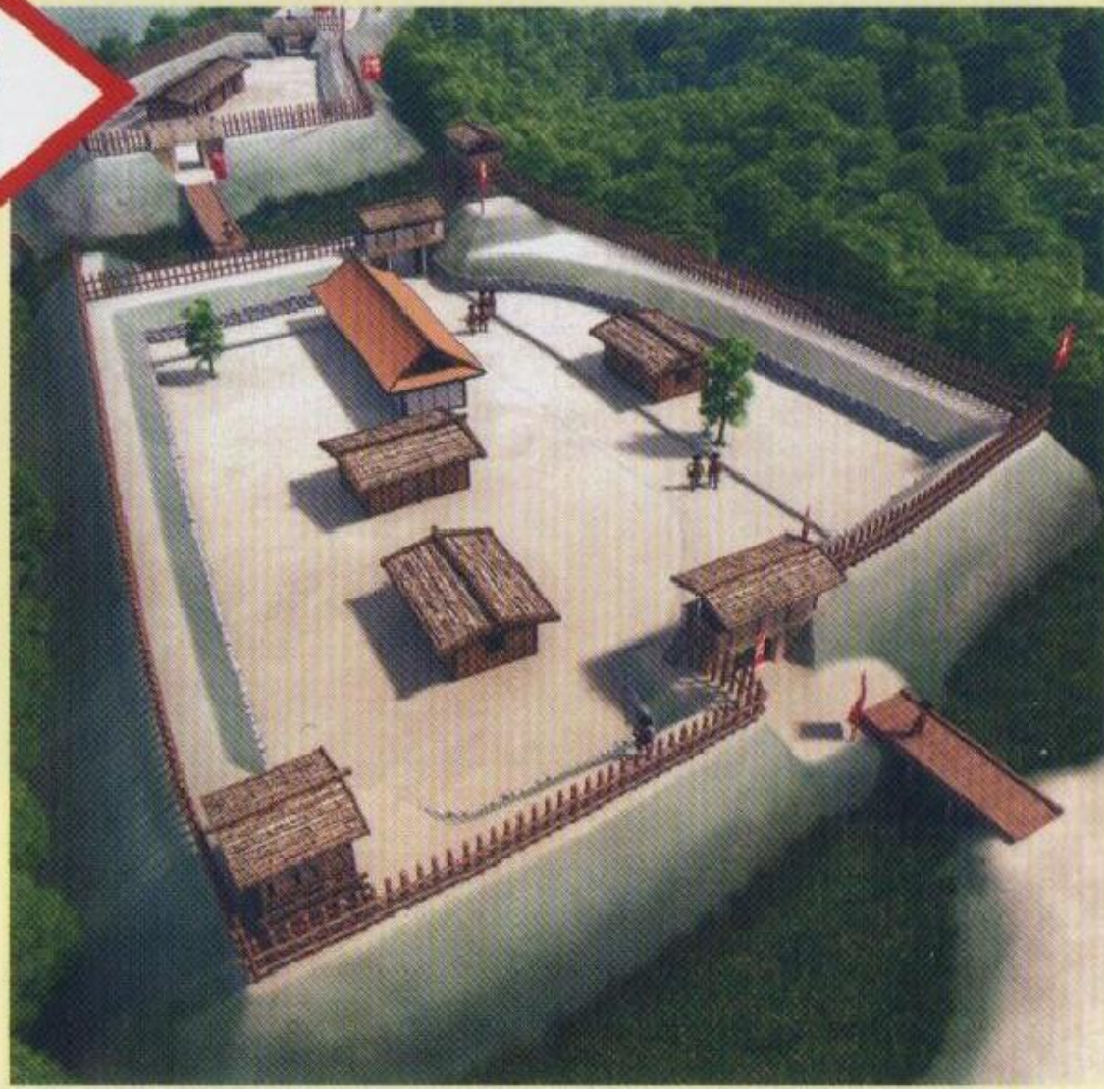
二郭調査全景空撮

掘立柱建物址（南側）

二郭掘立柱建物址（中央）

二郭
にのくるわ

周囲を土塁(どるい)で囲い南北の門を直に結ぶ通路脇(つうろわき)には、大小様々な建物群が並びます。



これは見学台から北東方向に二郭に建っていた掘立建物跡を示す表示を見たところ

その左手の急峻な崖を見たところ

崖下はこんな感じ

振り返って見たところ/左手は三郭、右前方は般若郭

その更に左手を見たところ/堀切の向こうは三郭

これは南門の東側の土塁の石積を見たところ

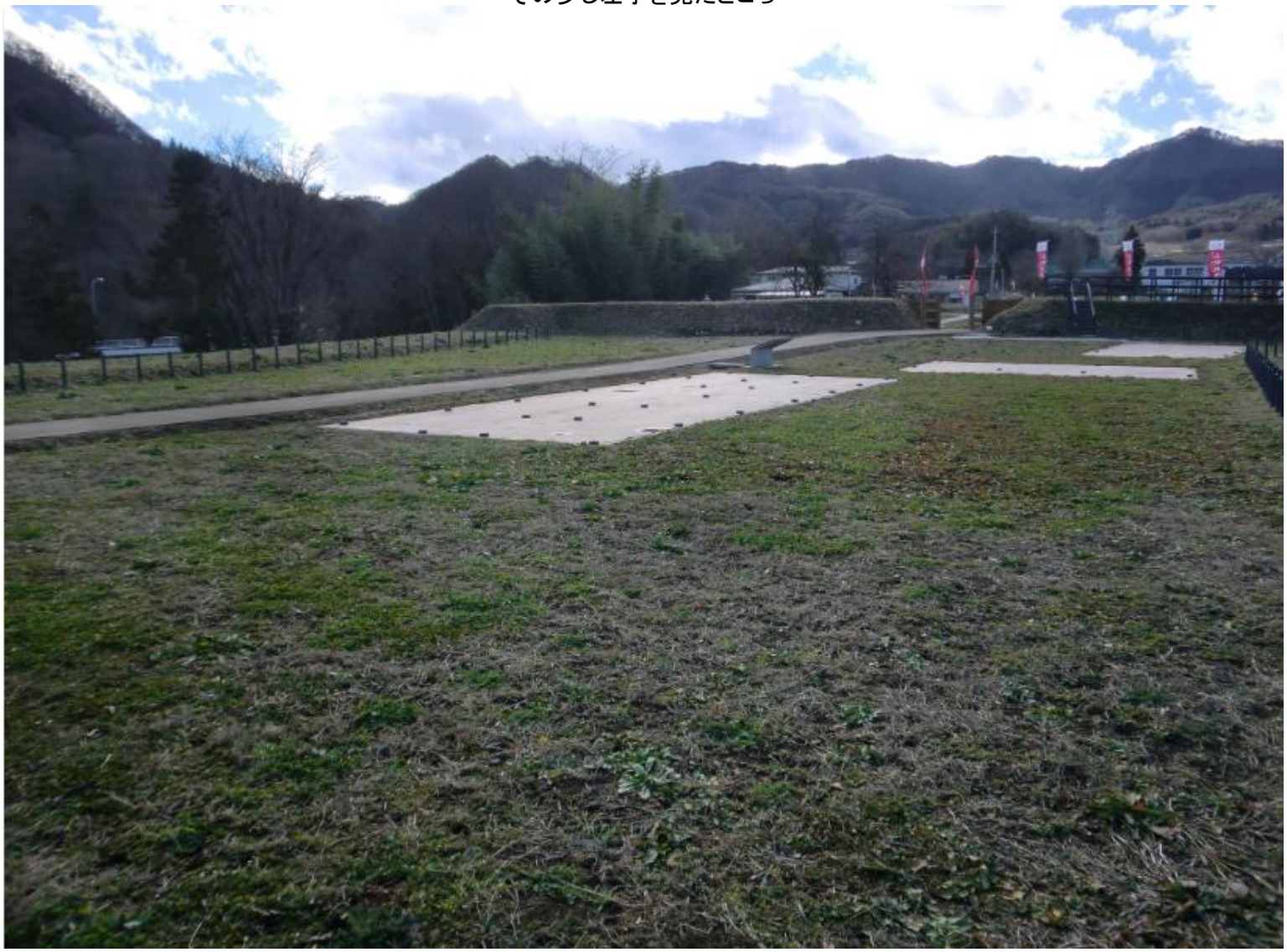
これは南門の西側の土塁の石積を見たところ

これは二郭の東側の土塁跡上で南西側から北東方向を見たところ

これは反対に北東側から南西方向を見たところ

そしてこれは二郭の西側の土塁跡上で北東側から南西方向を見たところ

その少し左手を見たところ



これは二郭から本郭を見たところ

さて、正面は本郭への北門

そしてここが二郭北虎口/前方は本郭への木橋

少し左手を見たところ

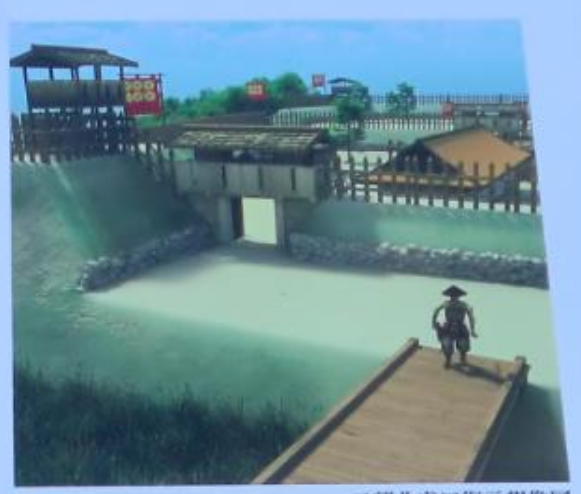
二郭北虎口（にのくるわきたこぐち）
虎口とは防御施設としての出入口のことで、小口や戸口に虎の字をあてて勇猛さ危険さを意味しています。
ここ二郭北虎口の仕組は、郭内の通路から続く4段の石垣による門址で、うちひとつは石垣の切石が再利用されています。通路東脇の溝は、門をくぐり郭東隅水として本郭裏切まで伸び、溝横から立ち上がる土壁の裾部には4～6段の自然石によるされ石積みがみられます。
本郭裏切は幅14～16m深さ7～9mあり、法面は二郭側より本郭側の方が20度ほど急傾斜で、土橋の左右で屈曲を変えて、大きくクランク状に進入する構造になっています。また、門址の西側に続く土壁の下からは、幅約3m深さ約1.5mの溝が確認され、空堀から土壁へ改築されていました。発掘調査の際に残り残した橋の基礎上には、6本の柱穴がみつかり木橋が架かっていたことがわかりました。
二郭北虎口復元想像図
本郭裏切土橋と本郭虎口
二郭北虎口門址
二郭北虎口石敷み

二郭北虎口（にのくるわきたこぐち）

虎口とは防御施設としての出入口のことで、小口や戸口に虎の字をあてて勇猛さ危険さを意味しています。

ここ二郭北虎口の特徴は、郭内の通路から続く4個の礎石による門址で、うちひとつは石塔の切石が再利用されています。通路東脇の溝は、門をくぐり暗渠排水として本郭堀切まで伸び、溝横から立ち上がる土塁の腰部には4～6段の自然石による乱石積みがみられます。

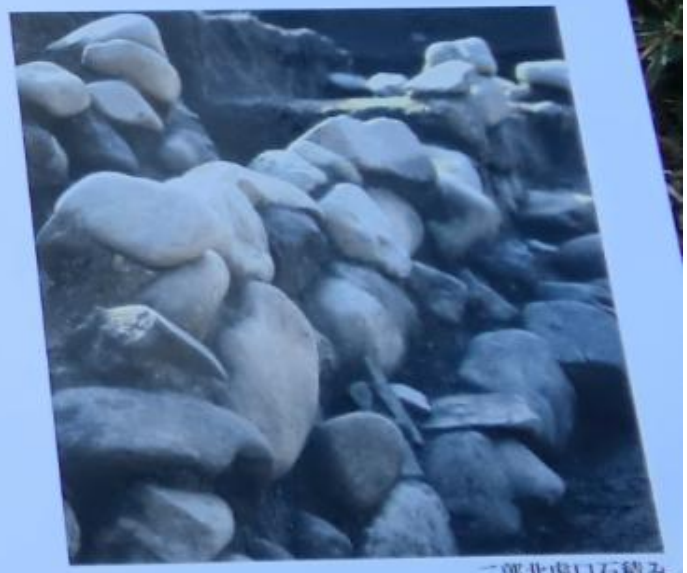
本郭堀切は幅14～16m深さ7～9mあり、法面は二郭側より本郭側の方が20度ほど急傾斜で、土橋の左右で堀幅を変えて、大きくクランク状に進入する構造になっています。また、門址の西側に続く土塁の下からは、幅約3m深さ約1.5mの堀が確認され、空堀から土塁へ改築されていました。堀切造成の際に掘り残した橋の基壇上には、6本の柱穴がみつかり木橋が架かっていたことがわかりました。



二郭北虎口復元想像図

本郭堀切土橋と木橋柱穴

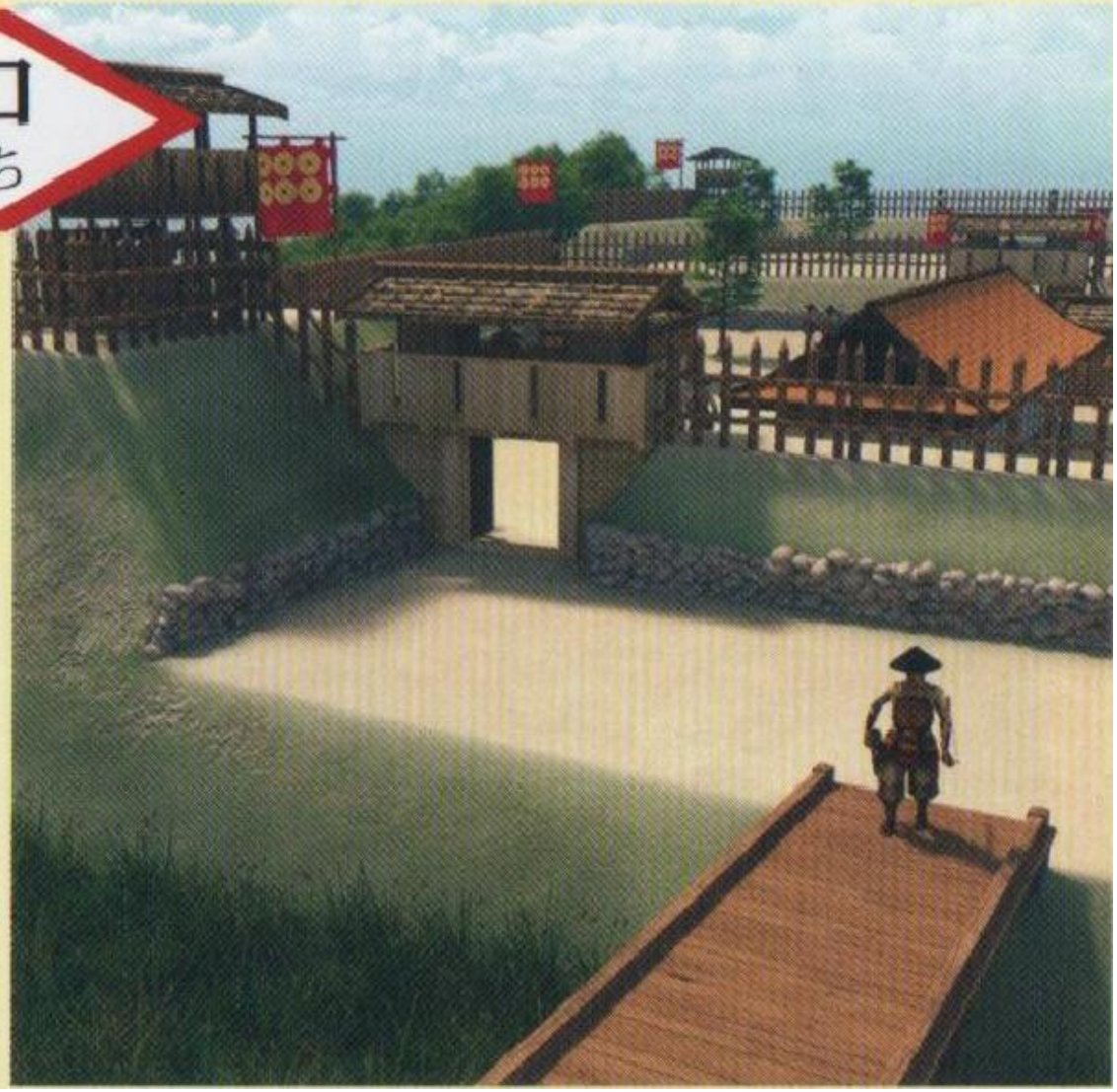
二郭北虎口門址



二郭北虎口石積み

二郭北虎口
にのくるわきたこぐち

礎石の北門と本郭堀切に架けた木橋を鉤手に通り、土塁上から横矢を掛けられる出入口です。



これは北門左手の土塁腰部の石積を見たところ

こちらは北門右手の土塁腰部の石積を見たところ

これはその更に右手の石積を見たところだが、草に隠れて良く見えない

さて、前方は本郭で二郭北虎口から堀切の上に木橋が架かっている

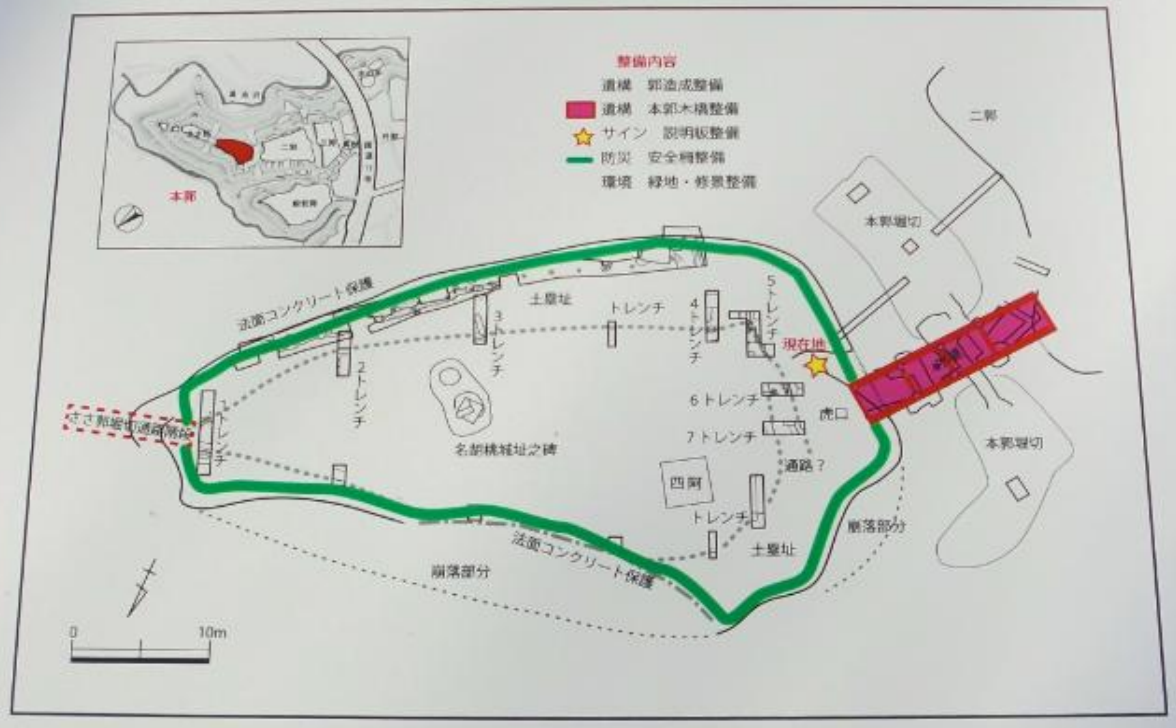
木橋から左下を見たところ

その少し左手を見たところ/車が止まっているところは般若郭

これは木橋から右下を見たところ

ここが本郭/北東方向を見たところ

本郭（ほんくるわ）



名胡桃城址は、大正12年に地元の有志で結成された保存会によって、よく保存管理されてきました。昭和2年、本郭（ほんくるわ）に「名胡桃城址之碑」を建立し、本郭とささ郭に松・桜などの樹木を植え史跡公園として完成させました。この碑文を書いたのは文豪の徳富蘇峰（とくとみそほう）であり、文字の彫りも深く見事で、石材は地元の富士山でとれた安山岩、村中の人たち総出で運び建てました。隣の副碑は、昭和43年の明治百年記念で建立しています。

本郭は長さ約51m幅約30mの洋梨形ですが、両側の崖面とも大きく崩落してコンクリートで補強されていることから、当時はもっと広かったことがわかります。郭の縁辺には土塁の基底部分が残っていて、土塁（どるい）が廻っていました。この城には天守（てんしゅ）はなく、本郭内の虎口（こぐち）や建物の状況はわかっていません。

名胡桃城址

正面にも石碑が二基立っている

左手の碑文は徳富蘇峰の書という

そこから振り返って二郭方向を見たところ

さて、本郭の先に行ってみよう

この先の堀切を渡ると「ささ郭」/北東方向を見たところ

振り返って本郭を見たところ

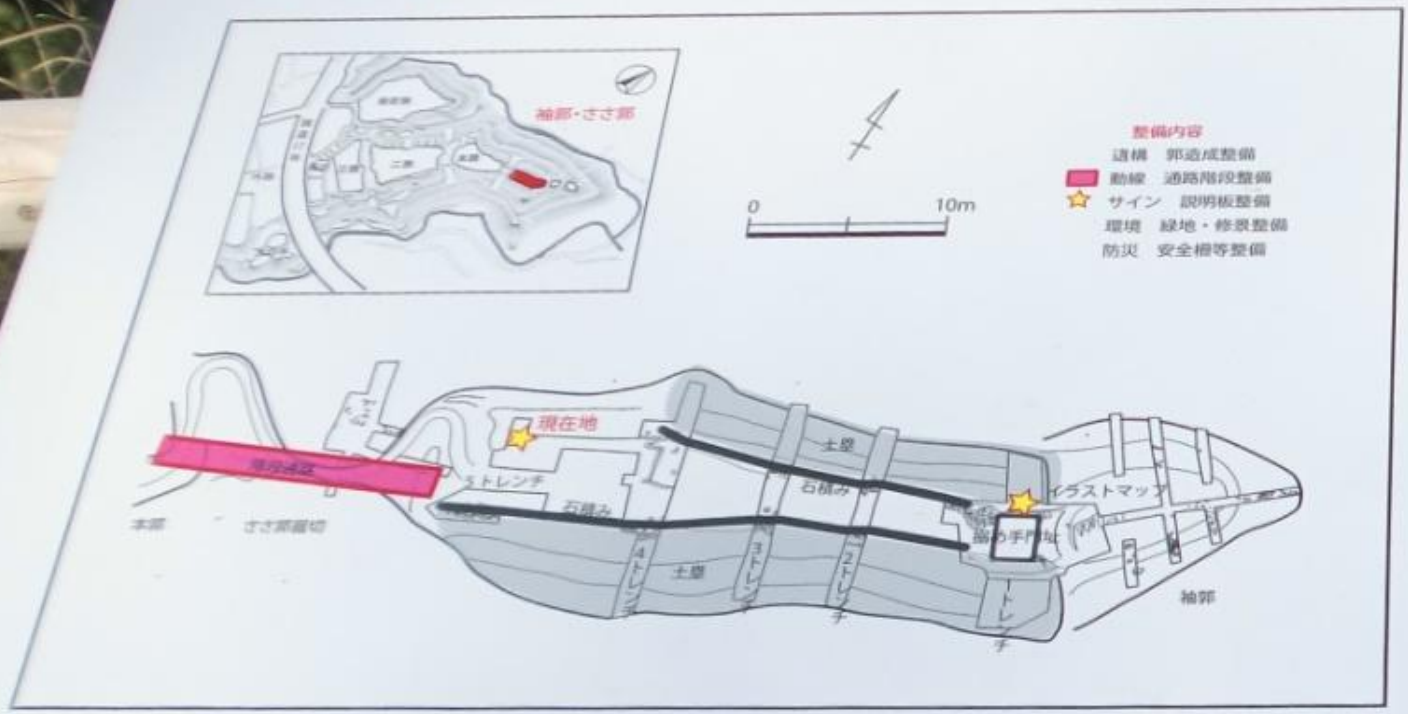
ここが「ささ郭」/両サイドに土塁が延びる

振り返って本郭方向を見たところ

右手の堀切を見下ろしたところ

ささ郭(ささくるわ)
ささ郭とは、城の主体になる本郭が外に対しておきだしにならないように設けた郭で、唯一この城跡に残存する土塁を中心にもつ特異な遺構でした。ささ郭の外周には柵塀と櫓が続き、南側ブロックに下方に連じていました。
ささ郭は東西約31m幅約14mで、中央には約1m窪り込んだ幅2～5mの通路があり、その両側を1mほど盛り上げた土塁で挟んでいました。通路の先端には礎石が4個設置され、冠木門がありました。土塁の内側には、自然石を3～4段乱雑に積んだ石積みがみられます。
本郭との間は、幅約12m深さ約6mの堀切で区画され、幅1mほどの狭い土橋で連結されていました。
現在、冠木門は・通路・石積み・土橋などは、保存のため埋め戻されてみられません。また、ささ郭復切に設置した現代通路は当時の復元物ではありません。
ささ郭北東側
ささ郭北西側
土塁石積み
土塁断ち割り状況

ささ郭（ささくるわ）



ささ郭とは、城の主体になる本郭が外に対してむきだしにならないように設けた郭で、唯一この城跡に残存する土塁を両側にもつ狭長な通路でした。ささ郭の先端側には袖郭と物見が続き、尾根づたいに下方に通じていました。

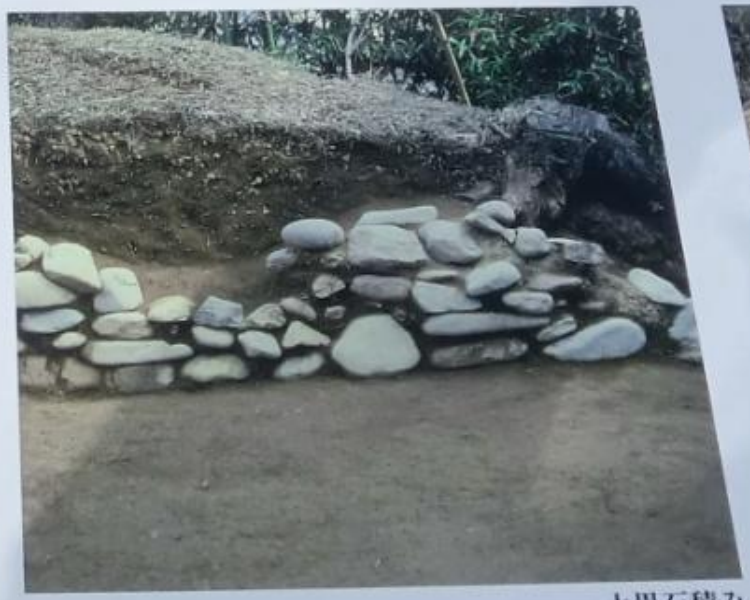
ささ郭は長さ約31m幅約14mで、中央には約１m掘り込んだ幅2～5mの通路があり、その両側を１mほど盛り上げた土塁で挟んでいました。通路の先端には礎石が４個設置され、搦手門がありました。土塁の内側には、自然石を3～4段乱雑に積んだ石積みがみられます。

本郭との間は、幅約12m深さ約6mの堀切で区画され、幅１mほどの狭い土橋で連結されていました。

現在、礎石門址・通路・石積み・土橋などは、保存のため埋め戻されてみられません。また、ささ郭堀切に設置した階段通路は当時の復元物ではありません。

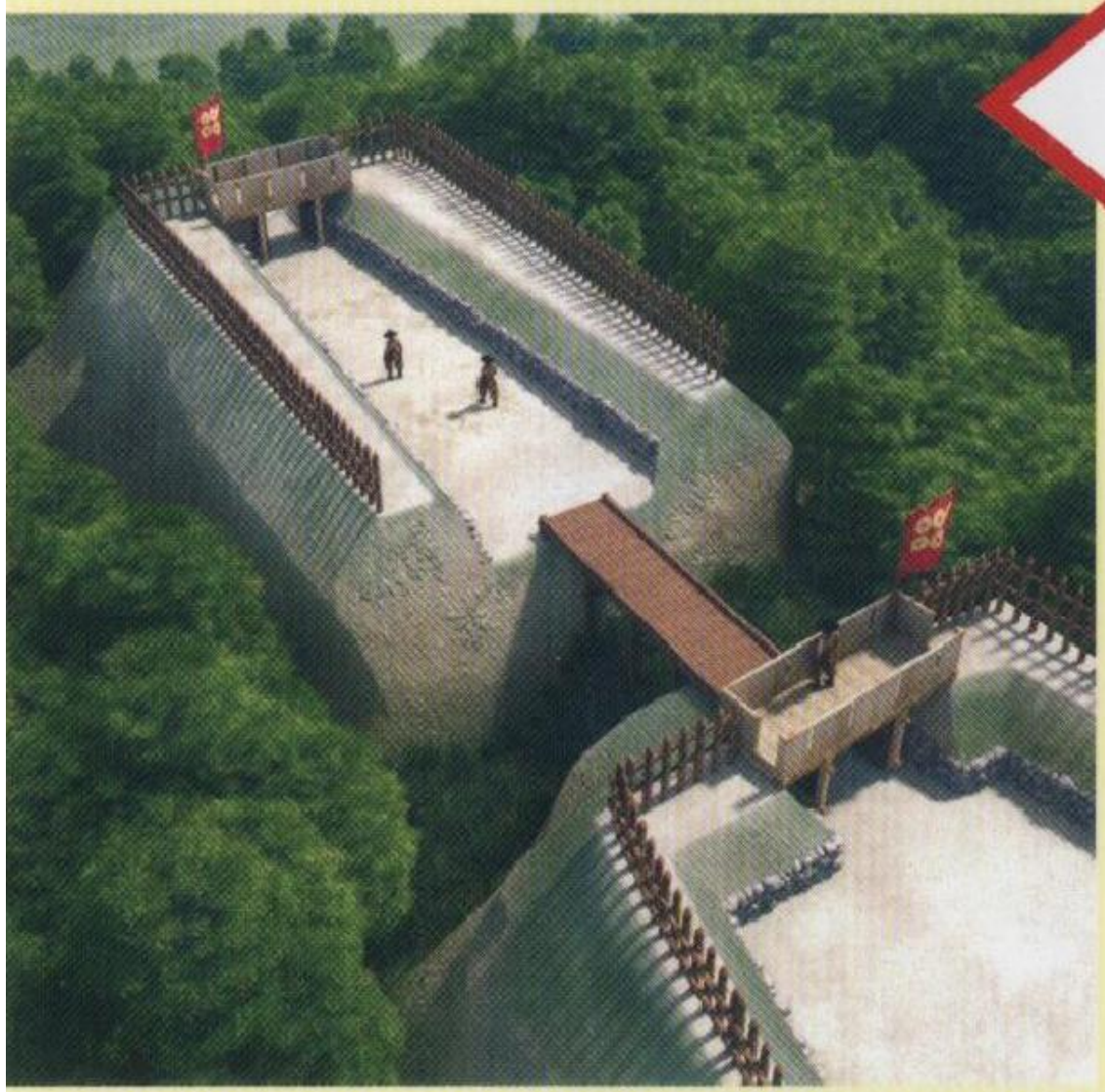
さき郭復元想像図

搦手門(からめてもん)址



土塁石積み

土塁断ち割り状況



ささ郭
ささくるわ

本郭（ほんくるわ）の前に付けられた郭で両側に石積（いしづみ）をもつ土塁（どるい）、先端には礎石（そせき）の門が残ります。

更に先に進んでみよう

「ささ郭」の先端であるここには搦手門があったという

そこで北東方向を見たところ

明徳寺城址は、正面(北東方向)にある三峰山山麓の中央付近に見ることができます。

小川城址は、左手側(北西方向)にありますが残念ながら直接見ることはできません。

沼田城跡は、右手方向の沼田台地上にありますが残念ながら尾根に隠れて直接見えません。
沼田台地で見える場所は、沼田城跡より東側の寺久保坂付近から関越自動車道方面です。

富士浅間砦址は、右手後(南南東方向)にある富士山の頂上に見ることができます。

権現山城址は、後側(南方向)にある尾根上(高山村との境)に見ることができます。

右手のこちらの方向に沼田城跡があるようだ

そして、「ささ郭」の更に先は袖郭、物見台と続き、尾根づたいに下方に通じているようだ

振り返って「ささ郭」を見たところ

さて、ここを右手に入ると名胡桃城址案内所脇の駐車場

正面が駐車場であるが、ここが般若郭のエリアとなる

左下を見ると急峻な崖下に川が流れている/天然の要害となっている

右手を見ると堀切が三郭方向へ延びている/中央向こうの堀切は三郭（右手）と二郭（左手）との間の堀切

般若郭(はんにゃくるわ)
般若郭は、主体となる郭の連続郭の西側に位置し、独立する小さな台地を環状で区画していて、長さ約85m幅約50mで名城構造のうち一番大きい郭です。ここは廃城として、幕末以前からの名残していたかもしれません。
郭の縁辺には、幕末を迎えた頃や何度が建っていましたが、周辺や使用の状況はよくわかりません。
また、中央部は西寄りには南北に流れる通路が、二箇の通路とほとんど同じ幅で敷設されています。この通路の両側からは、全部で24棟の掘立柱建物址群が整然と並んで建造されました。建物群は3時期にわたり重複し、同時に5～7棟が建っていたと考えられます。掘立柱建物址は9m以上の大型建物から中心的建物から3m程の小型建物まで規模・形態は様々で、郭の北東部には他の様な建物址もみられます。
西側は駐車場の下に埋め保されていて見ることができません。
般若郭全景
般若郭掘立柱建物址
般若郭通路と掘立柱建物址
般若郭周囲柵址と掘立柱建物址

般若郭（はんにゃくるわ）

般若郭は、主体となる郭の連続部の西側に位置し、独立する小さな台地を堀切で区画していて、長さ約85m幅約56mで名胡桃城のうち一番大きい郭です。ここは館跡として、築城以前から存在していたかもしれません。

郭の縁辺には、帯溝を建てた溝や柱列が廻っていましたが、南辺や東側の状況はよくわかりません。

また、中央部北西寄りには両脇に溝をもつ通路が、二郭の通路とほとんど同じ方向で敷設されています。この通路の両側からは、全部で24棟の掘立柱建物址群が整然と並んで確認されました。建物群は3時期にわたり重複し、同時に6～7棟が建っていたと考えられます。掘立柱建物址は9m以上の大型総柱の中心的建物から3m程の小型建物まで規模・形態は様々で、郭の北東端には櫓の様な建物址もみられます。

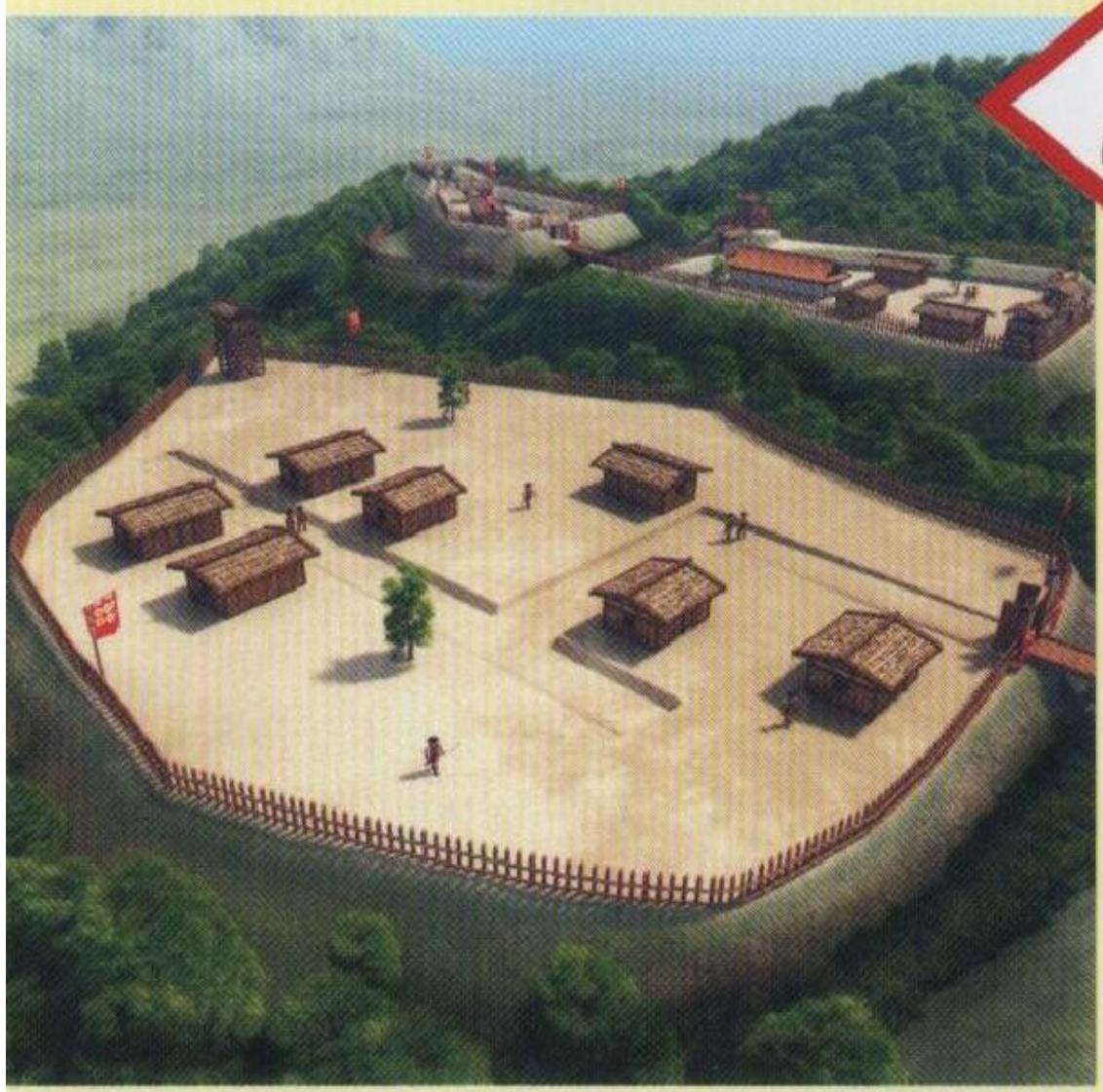
現在は駐車場の下に埋め戻されていて見ることができません。

般若郭復元想像図

般若郭全景空撮

般若郭通路と掘立柱建物址

般若郭周囲柵址と掘立柱建物址



般若郭
はんにゃくるわ

通路の両側には二十軒ほどの建物群があり、周囲を柵や櫓で囲った館状の郭です。

北東方向を見たところ

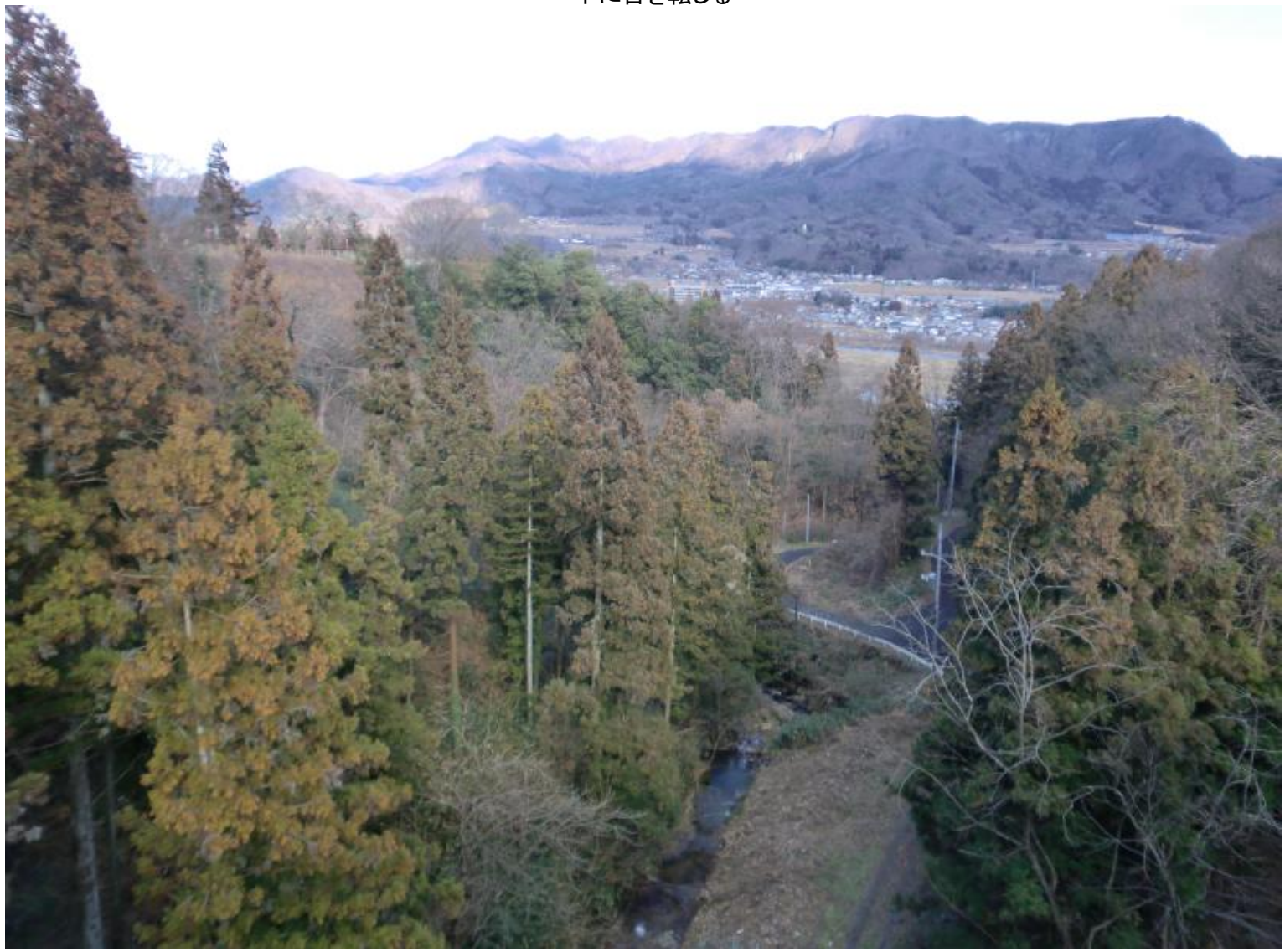
北東側から南西方向を見たところ

般若郭の北東側先端からその先を見たところ

さて、正面は国道の反対側で、橋（手摺が見える）の下に川が流れており、この辺りが「水の手」と呼ばれる場所らしい

これはその橋の場所から正面に本郭を見たところ

下に目を転じる



川（湯舟沢）が流れている/天然の要害となっている

さて、これは国道17号線月夜野バイパスの利根川を渡る月夜野大橋から名胡桃城址の辺りの西方向を見たところ

こちらの河岸段丘上の陰辺りか

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/011nagurumi/nagurumi.html

http://yogoazusa.my.coocan.jp/nagurumi.htm

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Nagurumi/

http://castle.slowstandard.com/08kanto/15gunma/post_34.html

http://www.sengoku.jp.net/kanto/shiro/nagurumi-jo/

http://ablinker.com/nakurumijyou.html

https://jyo-sai.com/castle-report/nodonjon/remains/nagurumi-20151216/

http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-254.html?sp

http://gozo-cedars.jp/2016/07/21/nagurumi-castle/

http://castlejp.web.fc2.com/02-kantoukoushinetsu/69-nagurumi/nagurumi.html

http://assault-lifelog.com/gunma-neta/sanadamaru-nagurumijosi-seichijunrei/

http://gpnotebook.gunmablog.net/e372136.html

http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/nagurumi-jyo/

http://blog.aoplanning.com/general-ground-castle-nagurumi/

http://d.hatena.ne.jp/akagi39/20150503/1430693663

https://wp.mikeforce.net/castles/2016/07/%E5%90%8D%E8%83%A1%E6%A1%83%E5%9F%8E-nagurumi-castle.html

273
291
17
まるひろ農園
後閑
上越線
関越自動車道
利根川
月夜野
薄根の大クワ
指定天然記念
彌平治りんご園
17
コメリハード&
グリーン月夜野店
265
253
上越新幹線
地図データ ©2016 Google, ZENRIN